



おじいちゃんとボクが訪ねた町

旧町名への旅

発刊にあたって

「旧町名への旅」は、当所機関誌『商工まえばし』において平成20年4月号より平成23年3月号まで、3年間に亘り旧市街44カ町の旧町名と、そこで育まれた文化や、そこにあった寺社仏閣等の建造物や人々の生活など、今の前橋を形作った歴史・文化を紹介してまいりました。

単に町名と歴史を論じるのではなく、「お爺さんと孫のやりとり」という形式により、ほのぼのとした雰囲気漂い、テンポ良く読み、前橋の歴史を分かりやすく理解できる等、幅広い年代層の皆様より大変好評を頂戴いたしました。

ご承知のとおり、現在の町名は、昭和37年に施行された『住居表示に関する法律』に則って昭和40年から42年にかけて段階的に変更されました。名称だけでなく区域もそうです。わずか数町を残してほとんどの町名が変わりました。

旧町名には、その土地の風土や生活が表れています。例えば、染物屋が多く集まっていたので「紺屋町」、桑の木があったから「桑町」等のように、人々の生活や町の風景を映し出してくれています。

本書は、こうした前橋の古い町名とその謂われを紐解くことで、いにしえの前橋に暮らし、今を形作ってきた先人たちの息吹や歴史を身近に感じていただく。そして前橋に対して正しい認識と愛着をもち、100年、1000年後も『素晴らしいまち』と皆が誇りの持てるような前橋づくりの一助になればと考え作成いたしました。

本書をご覧いただき、懐かしいと思われる方、初めて昔の前橋を知る方、その感じ方はさまざまかと存じますが、ぜひ前橋の原風景をじっくりとご堪能いただき、前橋の魅力を見つけ出していただければ幸いに存じます。

最後に、長期にわたり執筆いただきました群馬地名研究会の倉地啓仁氏、発刊にあたりご配慮いただきました石川鈴二氏にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成23年7月

前橋商工会議所
会頭 曾我孝之



おじいちゃんとボクが訪ねた町

旧町名への旅

c o n t e n t s

発刊にあたって

- 02 はじめに
- 04 桑町
- 06 紺屋町
- 08 豎町
- 10 横山町
- 12 榎町
- 14 立川町
- 16 萱町
- 18 本町
- 19 連雀町
- 20 田町・相生町
- 21 芳町
- 22 神明町
- 23 曲輪町
- 24 北曲輪町
- 25 南曲輪町・石川町
- 26 紅雲町
- 27 堀川町
- 28 田中町
- 29 前代田町・市之坪町
- 30 六供町・宗甫分町
- 31 諏訪町
- 32 一毛町
- 33 栄町
- 34 向町
- 35 萩町
- 36 岩神町
- 37 国領町
- 38 才川町
- 39 細ヶ沢町
- 40 小柳町
- 41 琴平町
- 42 清王寺町
- 43 大塚町・百軒町
- 44 天川町・新町・高田町
- 46 中川町・片貝町・天川原町
- 48 旧町名地図

あとがき

写真上より
 榎町／銀座通り
 本町／本町通り
 萱町／中央前橋駅
 清王寺町／1府14県連合共進会会場
 小柳町／柳座
 立川町／前橋座
 紺屋町／馬場川通り

おじいちゃんと ボクが訪ねたまち



大正時代の曙町通り

今月号から登場するおじいちゃんとボクと今はなきまえばしの地名(町名)を訪れ、その町名の由来や歴史を探ります。忘れつつある昔の町名を次世代に受け継いでいけたらいいなと思っています。
シリーズでご紹介致しますので、どうぞお楽しみに。

はじめに

その土地には地名(町名)が付けられています。まえばしにも由緒ある地名(町名)が、たくさん残されていました。なぜ、その土地にその地名(町名)が付いたのか、なぜ、そう呼ばれたのか、そう考えますが、地名(町名)はその土地の歴史を語るものであり、その土地の歴史を解明する貴重な資料といえます。

そんな昔の事を知ってどうするの?と思われましょう。でも、その時代の流れの中で、先祖の皆様が生きてこれ、今ボクたちがその土地で生活できているんだと思います。ただ単に過ぎ去った昔の事、ただ単に地名(町名)が付いた事として片付けられるものではないような気がします。

ボクたちが住んでいるまちを、このような地名(町名)という視点から先祖の皆様の生活の歴史を知り、その土地の自然環境の歴史を知る事が大切であると思います。そして、その事を知り、今のボクたちの生活を見直し、感謝したいと思うのです。さらに次世代に語り継ぐ必要があると思うのです。

ところで、ボクは土地というものは生きているものだと思っています。時代が流れる中で移り変わるものだと思っています。でも、土地には必ず記憶しているものがあります。時間が経過し、時代が移り変わって、



まえばし全景

「石川町の交差点でね…」とある時、ボクの母は話始めました。えっ?石川町?どこ?そこ?と思いましたが、あれからずい分と月日が経ち、もう忘れていましたが、ある時当時の荻窪町自治会長さんと懇意にしてみました。まちの歴史や民俗、地名について色々教えて頂き、話し合いました。その時、石川町の事が思い出され、さらに地名について、特にまえばしの町名について関心をもつようになりました。

まちには必ずその土地の歴史があります。そして、



●おじいちゃん

今年で70歳を迎えました。郵便局に務めていましたが、仕事を勤め上げて定年退職。仕事柄、長年鍛えた足はまだまだ達者で、日和もよければ「まちあるき」が大好き。軒下に飾られた花に、道行く人との立ち話に、心が浮き立つ元気いっぱいのおじいちゃんです。ボクがいうのもなんだけど、いい友達といえるかな。



渋川行きの電車発着所（前橋駅前）

まちの表情が変化しても、見た目は変わり昔とまったく異なった風景になっても、その土地には歴史が刻み込まれた記憶というものが残ります。それはなぜでしょう。おそらく、その土地で生活をされた先祖の方々の思いが魂として残っているからでしょうか。ある土地では、その名残が生活の中に残っている場所もあるでしょうし、まったくわからなくても、その土地の地名（町名）から推測できる場所もあるでしょう。見た目ではわからなくても、感じ、雰囲気でもわかる事もあるでしょう。いずれにしても、今まで生きてこられた先祖の方々がいらつりやって生活をされていたのですから、当然その思いが、どこかで記憶されているものだと思います。

それから、誰にでも幼少の頃の記憶というものが必ずあります。幼少の頃、生活をしていた時の事を思い起こしてみてください。家族と係った生活の中で会話をした事、家の近所で遊んだ時の風景、それはやはり個人の記憶そのものです。それを原風景と呼びます。この個人個人の原風景が寄り集まって、その土地の歴史となつて形成されているのだと思えます。だからその土地には先祖の方々から現在生きているボクたちの思いが込められているのです。ボク



●ボク

ボクは高校2年生。1年生のフレッシュさはないけど、かといって3年生の受験圧力とは、まだちょっと遠い日々(?)を送っています。回りからは、もうそろそろという声も聞こえてくるけど、まだ大丈夫と言い聞かせています。おじいちゃんと一緒に街巡りが好きで、「ちょっと変わってる」とも言われるけど、好きなものは好きなんだからしょうがないよね、うん。

クたちが大きくなるにつれて、その事を忘れてしまいがちになります。でも、その記憶はこれからボクたちが生きていく過程の中で大切な事であると思います。

冒頭でもお話した通りボクたちが住んでいるまちを地名（町名）という視点から先祖の皆様の生活の歴史を知り、また大切な祖先からの記憶を知り、そして現在のボクたちの原風景を思い起こし、まえばしの地名（町名）について考えていきたいと思います。

これから、おじいちゃんと一緒に消えてしまったまえばしの地名（町名）を調べるためにボクたちの住むまちを訪ねたいと思います。

1 回目は、桑町を訪ねてみます！

■まえばしの地名(町名)変遷について

以下のように時代の移り変わりにより、まえばしの地名(町名)が変わっています。

- 江戸時代から明治5年までの地名(町名)
 - 明治6年にあまり知られていない字名を幾つかずつ統合して新しい町名が誕生した時の地名(町名)
 - 明治22年に町村制が施行され、前橋町が誕生した時の地名(町名)
- ※明治25年に市制が施行され、前橋市が誕生した
- 昭和37年に制定された新住居表示に関する法律が昭和40年、昭和41年、昭和42年に施行された時の地名(町名)

前橋市真景図



懇切診療ニ従事ス

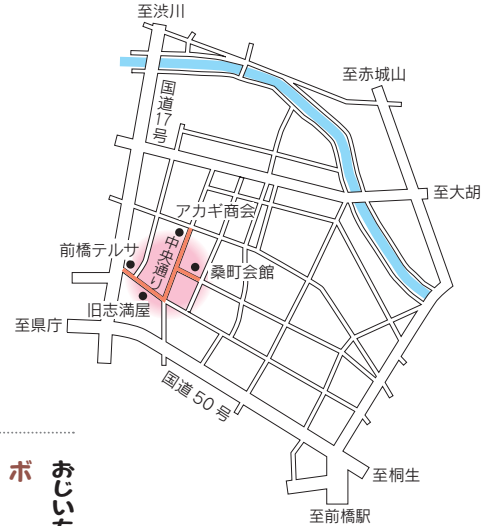
大野齒科病院

寫眞ハ本館ニ限ル

大塚喜門日英堂製版

桑町

Kuwa-machi



昭和初期の桑町通り（現・中央通り）左から白牡丹、今井玩具店、鈴木薬局

おじいちゃん：今日は桑町に行ってみよう。

ボ：ク..なんて読むの？

おじいちゃん：「くわまち」と呼ぶんだよ。このまちに住む人たちは「くわのきまち」とも呼んでいたそうだよ。

ボ：ク..いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村、下之町（隣町2町を含む）とっていたんだよ。

ボ：ク..今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：桑町は今の中央通り商店街界隈だね。昔は中央通りを桑町通りと言っていたんだよ。

ボ：ク..なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：昔、まえばしは糸のまち、製糸業の盛んなまちだったんだよ。それを象徴するようになこのまちの中に大きな桑の木があったから、桑町って付けたそうだよ。明治40年ぐらまで春になると桑苗の市でにぎわったそうだよ。

ボ：ク..いつから、この地名が消えたの？そして何か残っているの？

おじいちゃん：この由緒ある町名が昭和時代の新任居表



昭和初期（詳細不明）の桑町（現在の中央通り）の街並み。着物と洋服が当時の世情を偲ばせる

示に関する法律が施行されたことにより、何ヶ町かが集まり、千代田町二丁目になったんだ。今は昭和42年に設立された財団法人の名称を桑町会館とすることで当時の町名を残すこととなったようだが、今はそれ以外になにもないね。ただ、江戸期の頃、町の守護神として三峯神社を祀ったようので、今は桑町会館の屋上に安置してある。

ボ：ク..当時の桑町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：まえばしは江戸末期から明治時代にかけて養蚕の盛んな糸のまちだった、特に戦前のまえばしは広瀬川の北には製糸工場が数多くあったそうだよ。遠い農村の女性達、たとえば新潟や東北から積雪を後にして上州に出稼ぎに来ていた女性達や近郊近隣の女性達もこの製糸工場の宿舎に泊まって生活していたんだよ。その人数は2万人以上だと言われている。仕事は相当過酷な労働をさせられて大変だったようだよ。この製糸工場に勤める女工さん達は、気晴らしに夜、仕事が終わるとまえばしの中心商店街である桑町通り



天保3年（1832年）より平成8年（1996年）まで営業を続けた志満屋片原饅頭



萩原朔太郎が撮影した桑町通り。現在の中央通り坂下より北方を望む

ボ 界限に出てきて、化粧品、バック、帽子、着物、小物、下駄などを買ったそうだよ。
ク 活気があったようだね。ボクが思うにはこの女工さん達のおかげで桑町界限の商店街に繁栄をもたらしたような気がするよ。

おじいちゃん 。。おじいちゃんもそう思うよ。それから周辺の農家の人たちが製糸工場に繭（まゆ）を納めに来て、帰りには必ず今はなき志満屋の片原饅頭（かたはらまんじゅう）を買って行ったそうだよ。この志満屋はテルサ南側と中央通りを結ぶ道の中ほどにあつたけど、この通りを片原通りと言っていたそうだよ。前橋藩時代に馬の運動のために行く道筋で馬場川の北側が原っぱになっていたから、その名前が付いたそうだよ。

おじいちゃん 。。明治の中頃、率先して各町にさきかけて電灯をつけたのは桑町だったんだよ。ネオンをまえばして初めてつけた店があつたそうだよ。また、まえばして最初に道路に舗装したのも桑町だったそうだよ。そして終戦の荒れたアスファルト舗装をいち早く美装したんだ。

ボ 。。何か、まえばしの最先端を走っていたようだね。すごいね。

おじいちゃん 。。でも、昭和4年に生糸相場が大暴落し、輸出が停止し、生産県である群馬県では、工場が閉鎖され、女工さんたちは職を失い、農家は繭が売れず、購買力は最低となり、まちは火が消えた状態になったん

だ。そして、太平洋戦争に入り、昭和20年8月5日の前橋空襲で焼け野原になってしまったんだ。それでも桑町の人々は商店街の復興に力を入れ一生懸命頑張った。そのおかげで戦後、桑町を中心とする商店街も本格的な店づくりがされて、昭和35年、36年頃には人通りも多くなり、魅力ある商店街として形成され、昭和37年に全国の商店街に先駆けて中央通りに、車を遮断して、歩行、買い物者の安全性が完全に守られた全蓋のアーケードが完成されたんだ。

ボ 。。ところで、商店街の中を歩くと蔵が幾つ

おじいちゃん 。。桑町は商店街だから物を保存するための蔵がたくさんあつたんだよ。でも、8月5日の前橋空襲で焼け残ったのはわずか4棟だそうだよ。ボクが見たのは、その一部だろうね。

ボ 。。それにしても、なぜ町名もさることながら、昔の桑町通り、片原通りという名前を残せなかったのかなあ。

おじいちゃん 。。昔、町名変更に係つた方たちも苦労したと思うけど、由緒ある町名や通りの名前が消えてしまったことは残念だね。

ボ 。。でも、おじいちゃん、いずれにしても、桑町は蚕（かいこ）の国、生糸のまちらしい親しみのある響きがかもつた町名だね。

おじいちゃん 。。では、次回は東隣りの紺屋町に行ってみよう。

紺屋町

Konya-machi



昭和初期の馬場川通り

おじいちゃん：今日は紺屋町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：最初は「こうやまち」、その後「こんや

まち」と呼んでいたそうだよ。

ボ：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は

天川原村とっていただよ。

ボ：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：紺屋町は今の馬場川通りからスズランデ

パート付近の銀座通りまでの一帯だね。

その間の通りは紺屋町通りというんだ

よ。

ボ：ク：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：前橋城があった江戸時代のまえばしは、

城下町だったんだよ。職人や商人が城の

まわりに集まって住む、こうしてできた

町が城下町なんだけど、紺屋町もその一

つだったんだ。紺屋とは染物屋のことで、

染物の職人さんたちが住んでいたところ

から紺屋町って付けたそうだよ。

ボ：ク：まちの中には紺屋町の名残があるのか

おじいちゃん：ちよつと前までは、まちに流れている

馬場川に川底まで降りられる階段があっ

たよ。おそらく、染物屋の職人さんが、

布を染める時に階段を降りて馬場川の水

を使ったんだね。馬場川の水は今よりは

るかに澄んでいたのだろうね。その後は

器物や洗濯をするための洗い場になっ

た。あと、まちの西端、桑町境に越後

から分身された菅谷（すがたに）不動尊

があった。眼に特効があったそうで、ま

ちの鎮守様であった。惜しくも今はなく

なってしまうた。

ボ：ク：その後、紺屋町はどうなったの？

おじいちゃん：明治の近代化を迎え、生糸の好況、群馬

県庁の誘致などの影響により紺屋町を中

心として隣町2町を含む周辺一帯は一段

と華やかとなり、職人町から花街になり、

まえばし一の花柳界になったんだよ。

ボ：ク：花街、花柳界って何？

おじいちゃん：芸妓（げいぎ）◎芸者のこと）さんが出入



明治38年、紺屋町に移転した前橋商業会議所



昭和 20 年代、紺屋町のお祭り

りする界隈を花街、芸妓さんの世界を花柳界というんだ。花街の中は、芸妓さんを中心に料理屋、待合茶屋、貸席、貸座敷で成り立っている。

ボ **ク**..紺屋と花街は何か関係があるの？

おじいちゃん..東京では、都会の遊興施設が集中する盛り場では大正時代まで、まだ江戸時代の雰囲気をとどめる表現があった。盛り場にある店の玄関には紺色の暖簾(のれん)が下げられ、夏になると涼しさを演出するため、料理屋では青い暖簾が使われていた。また、紺屋職人さんの作った染物と芸妓さんの着物が何か関係しているのかな。おじいちゃんもよくわからないけど、このような意味でまえばしも紺屋職人さんの住むまちから花街へと引き継がれているのではないかと思っただ。

ボ **ク**..花街の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん..紺屋町一帯は、大昔利根川が流れていて、その伏流水があったんだよ。まちの露地をはさんで芸妓さんの住む長屋があり、その中には井戸が幾つもあって、また風呂屋も幾つかあったんだよ。この井戸や風呂屋の水は、この伏流水なんだろうね。その風呂屋には午後になるとお座敷に上がる前に芸妓さんが入っていたそうさ。また、紺屋町通りや馬場川通り界隈の花街では、昼間でも狭い路からお稽古の三味線の音が聞こえてきたり、おどりの稽古帰りの姐さん方の姿が見えたそうだよ。そして、灯の入るころになると貸

席、貸座敷から三味線の音が聞こえ、活況に満ちた夜の世界になっていくんだ。

ボ **ク**..紺屋町は昼夜問わず、何か風流で独特な香りのするまちのようだね。

おじいちゃん..因みに当時の男女の人口割合は、女性のほうが上回っていて、男性の倍の人数が生活していたそうだよ。

ボ **ク**..女性が主役の世界のまちなんだね。

おじいちゃん..そうだね。でも、花街は芸妓さんのお相手である男性がいて成り立っていたわけだけど、その男性は他のまちから来る生糸商人をはじめとする商家の方々であったり、お座敷は商談にも使っていたそうだよ。

ボ **ク**..今の紺屋町はどうなんだろう。

おじいちゃん..戦後からお座敷は激減し、今はもう花街は消えてしまった。粋を好む客がいなくなってしまったこと、他に安易な享楽飲食店が増えたからかな。そして、昭和時代の新住居表示に関する法律が施行されたことにより紺屋町という町名も消えてしまった。

ボ **ク**..なんとなく寂しいね。

おじいちゃん..今は色々な飲食店が建ち並び、歓楽街として華やかな夜は変わらないけど、艶めいた風情が漂うまちではなくなってしまうような気がする。

ボ **ク**..でも、おじいちゃん、紺屋町も花街もなくなってしまうけど、紺屋と聞くと何

とも言えない香りがするまちだね。

おじいちゃん..では、次回は豎町に行ってみよう。

豎町

Tatsu-machi



大正時代の豎町通り



国道 17 号の歩道に設置された
萩原朔太郎撮影の豎町通りの記念碑



今も残る豎町神明宮

おじいちゃん：今日は豎町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「たつまち」と呼ぶんだよ。

ボ：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村、下之町（桑町、他隣町1を含む）

とっていただよ。

ボ：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：豎町は国道17号線と国道50号線の交差するところから北上し広瀬川の架かる厩橋までの界限だね。

ボ：ク：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：現在の国道17号線は豎町通りで、今もそう呼んでいるね。この通りの両側界限が南北の方向にまちが連なっていたからかな。豎は縦だからね。

ボ：ク：当時の豎町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：通り沿いは漆喰（しつくい）で塗られためられた瓦屋がずらりと軒を並べ、各種の間屋筋になっていたんだよ。今でも呉服屋さん、履物屋さん、荒物屋さん、お

ボ：ク：何か活気があった通りだね。ところで、連合共進会って何？

おじいちゃん：連合共進会とは、関東、東北合わせて一府十四県が参加し、農産物や工業製品などの物産を出品させて一堂に集め、多くの人々に見てもらいお互いに技術の交流、発達をはかるための展示会だった。



市制施行 60 周年記念事業「前橋グランドフェア」開催の協賛祭りでの「堅町」の人々と街並み
(昭和 29 年 10 月 15 日)

このような物産展の他、各種大会、サーカスや活動写真などが催されたようだ。今でいう万国博覧会のようなものだね。

ボ ク…この連合共進会によってまえばしは何か変わったの？

おじいちゃん…群馬県が誕生して以来の最大の行事であつただけど、この連合共進会の開催にあたり、まえばしは、製糸業に活況をもたらし、前橋駅の拡充、道路整備を始めとする事業などが行われ、まえばし界限は一挙に近代化する役目を果たし、あたりは一変し、短期間のうちにまえばし市民の生活文化に大きな変革をもたらしたんだ。前橋渋川間の馬車鉄道を路面電車に転換し、同時に渋川伊香保間も電車化するという大きな事業もその一つで、連合共進会を観覧した後、この路面電車で伊香保温泉を訪れる人達もいたそうだ。

ボ ク…今はもう路面電車、ないよね。なんとなく寂しい感じだよ。国内の都市の中にはまだ路面電車が走っているよ。

おじいちゃん…国道17号線として堅町通りが拡幅されたけど、交通事情の変化やまちの発展の障害として考えられたことが原因で消失してしまつたのかな。

ボ ク…他に何かあつたの？

おじいちゃん…今のテルサの西側に前橋城の坪呂岩（つぼろいわ）御門があつたよ。つい最近まで、門の石垣が残っていたけど、マンションが建設された時、消えてしまつたようだ。その北には、つい最近まで、明治期

から知られるまえばし切つての最古の料理店であつた嬉野（うれしの）旅館があつた。また、今のテルサの場所に、昭和初期最盛期にまえばし一流の大旅館住吉屋があつたよ。間口の広い純日本式の堂々たる構えだつた。その後、ここには昭和39年に県下初の百貨店として前三（前橋三越）百貨店が開店した。本格的な百貨店の開設は昭和の高度成長期到来を告げる象徴的な出来事だつたようだ。しかし昭和60年に惜しまれながら閉店した。

ボ ク…それにしても、色々と変化のあるまちだね。時代が流れる中、まちは移り変わると思うけど、名残惜しい感じがするよ。

おじいちゃん…一つだけ残っているものがあるよ。今は違う町内になつているけど、堅町43番地という飛地にある神明宮があるよ。堅町の鎮守様なんだ。まえばし市内でも有数な広く立派な境内を持つていて、その、中の島をめぐつての静寂な池の風景は、思わず誘い込まれるほどの魅力をかもし出していて、五、六百年も経つという大松がそびえていて今でも健在だよ。

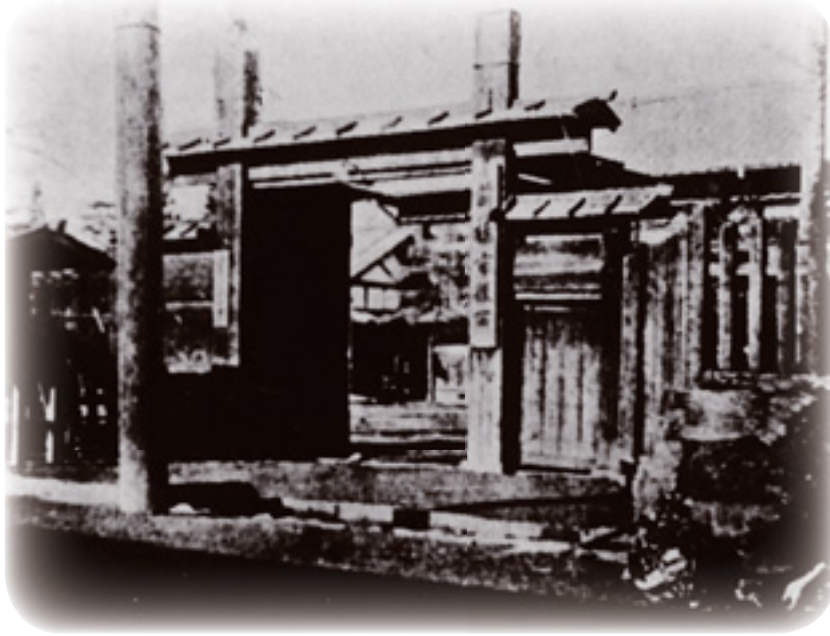
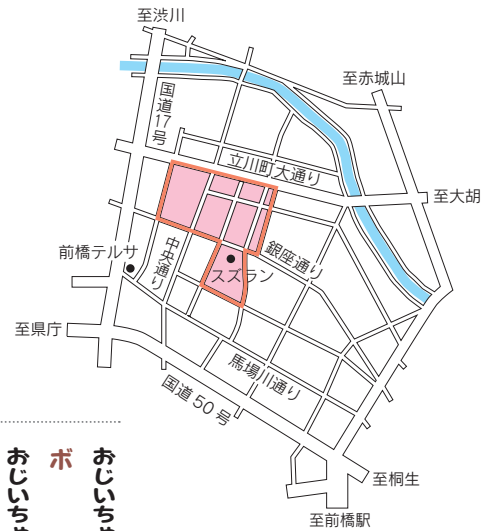
ボ ク…堅町は昔の面影がなくなつてしまつたけど、今でも、堅町通りという名前が残っているし、まちの鎮守様も残っているんだね。それにしても、ボクとしては路面

電車が消えてしまつたことは残念だね。道路交通事情があるのかもしれないけど、何とか復活できないものかなあ。

おじいちゃん…では、次回は横山町に行つてみよう。

横山町

Yokoyama-cho



明治時代の前橋市役所

おじいちゃん：今日は横山町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「よこやまちょう」と呼ぶんだよ。

ボ：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村、下之町（隣町2町を含む）と

いってたんだよ。その後、明治初年頃までは横町（よこまち）と言っていたんだよ。下之町は、先日訪ねた桑町、豎町、そして横町に分かれたんだよ。そして明治6年から横町を改称して横山町になったんだよ。

ボ：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：横山町は今の銀座一丁目通り商店街界隈だね。

ボ：ク：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：前回訪ねた豎町が縦に町並みが連なっていた事に対して、横に町並みが連なっていたところから、横山町って付けたそうだよ。

ボ：ク：当時の横山町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：昔は豎町が本道であったので、この辺りは人家がまばらな淋しいところで、大半は天王山実相寺という寺の境内だったそ

ボ：ク：なぜ、小石神社と言われたの？

おじいちゃん：この神社には、素盞男尊（すさののみこと）と日本武尊（やまとたけるのみこと）を祭っており、神石は約150kgもある赤石だそう。大昔、日本武尊が東夷征伐の途中、橋山の山頂で生まれ、相模の海に入られた弟橘姫（おとたちはなひめ）を追想された時腰掛けられた石だという話が残っている。そして、実相寺の方がここに移されて「恋し石」から小石になったという話が残っている。

ボ：ク：何か、ロマンチックな話だね。この神様のご利益は何かあるの？

おじいちゃん：その当時は陰陽道（おんみょうどう）に関わる神社仏閣だったようで、結婚に、また出産に縁起のいい神様とされ、子供が産まれると実相寺に行き、名前を付けてもらったそう。そして、小石神社は



明治初期、銀座通りにての小石神社の祭礼



老舗仕出し屋「鹿島屋」

ボ お西さまとも呼ばれ、商売繁盛を祈願して熊手などの縁起物を求める人々が繰り出したようだよ。また、夏の頃になれば、植木や虫を売る風流な夜店が毎夜たつたそうだよ。

ク このまちに住む人にとって人生に、また生活に必要なところだったんだね。ところで、今、この神社はどこにも見当たらないよ。

おじいちゃん 小石神社は昭和46年に敷島公園北側住宅地の中央に移転され、神社跡地はスズランデパートになり、現在に至っている。デパートの屋上には小石神社の分社が祀つてあるようだよ。

ク 他に何かあるの。

おじいちゃん このまちで忘れてならない事は、明治22

ボ 年町村制が施行され、前橋町が誕生した時、横山町24番地に町役場が置かれ、そして明治25年市制が施行された事に伴つて市役所の庁舎となつた事なんだ。

ク 市役所が今の街中であつたんだあ。

おじいちゃん 官庁だけではなく、先日訪ねた紺屋町同様、花街として巷に歓楽の匂いが濃かつた。多くの料理店や待合茶屋、貸席、貸座敷、魚屋、すし屋、てんぐら屋などの家並みが目立っていたんだよ。特に、現在のテルサの東の通り、中央駐車場の南辺りに鹿島屋という老舗の仕出し屋があり、市内の料理屋などへ仕出しを引き受けていたようだよ。また、中央通りと銀座一丁目の交差する角に一躍百貨店に躍進した麻屋があつた。屋上には遊園地もあつたそうだよ。今も当時を偲ぶ建物の一部が見られるね。

ボ 時代の移り変わりの中で官庁やお店など色々と混在していて、活気のあるまちだったんだね。今も繁華街となっているけど、ほとんどなくなつてしまつたね。

おじいちゃん 今でも健在であるお店があるよ。銀座一丁目通り沿いに割烹料理である矢内(やない)があるよ。昔は矢内居酒屋店といつてさざえの壺焼(つばやき)が元祖だったようだけど、今はうなぎで有名だね。よし、今日の昼食はうなぎにしよう。

ボ ク..わーい、うれしいなあ。

おじいちゃん では、次回は東隣の榎町に行つてみよう。

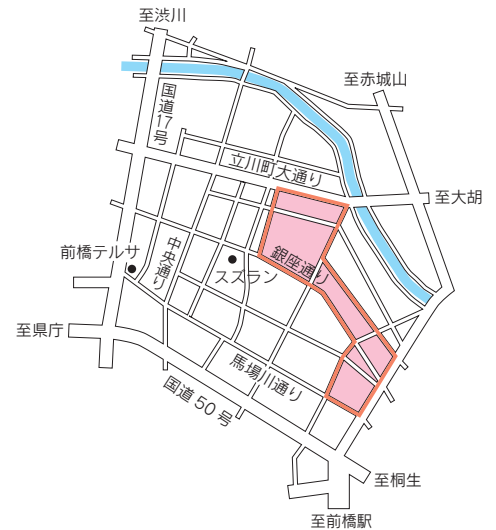
11 - 旧町名への旅

榎町

Enoki-machi



大正時代の銀座通り



おじちゃん：今日は榎町に行ってみよう。
ボ：ク…なんて読むの？
おじちゃん：「えのきまち」と呼ぶんだよ。
ボ：ク…いつからこの町名があるの？
おじちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は天川原村と言っていたんだよ。
ボ：ク…今はどこになるのかなあ。
おじちゃん：榎町は今の銀座二丁目通り商店街界隈だね。
ボ：ク…なんでそういう町名になったの？
おじちゃん：以前、千代田通りの角にあった、みやま会館の南側に抱えきれぬほど大きな榎の樹があったから、榎町って付けたそうだよ。以前訪ねた紺屋町一带と同様、この付近も利根川が流れていて、河原には葎(あし)が生え、陸地の安定したところには灌木も生えはじめ、そんな大地に榎の樹も生育していったのだろう。そして、



銀座通りの一角に安置されている延命地藏

その榎の樹が明治40年頃まで残っていたよ。うだよ。
ボ：ク…そういった自然環境から地名が付いたところってあるよね。
おじちゃん：まちに住む人は、この榎の樹が一つの目印の樹となっていたのだろう。そして、まちのシンボルであり、また今というランドマークだったのだろう。
ボ：ク…その当時は、当たり前だったのだろうけど、今思うと、地名とまちに住む人の生活が密着していたような気がするよ。
おじちゃん：ボクの言うとおりだよ。
ボ：ク…当時の榎町だった様子を見てみたいよ。
おじちゃん：東和銀行東側通りは縁切坂といって、そ



大正9年に創設された「大和劇場」

ボ

の坂下に清らかな井戸があったそう。井戸の傍に梅の木があって、その芳香が井戸の水に移ったそうで、また、井戸の噴き出る水のさまが梅の花の形に見えたそう。梅の井と呼ばれる井戸として名所になったそう。この名をとって梅の井という寄席があったんだ。浪花節や義太夫、落語、琵琶などが上演され、人々を楽しませてくれた劇場だったんだ。

ク

そういえば、ボクが小さい頃、このまちに映画館があったよ。

おじいちゃん

実は榎町は映画館のまちだったんだよ。明治43年の共進会が終わった後、県下最初の映画常設館として、みやこ会館というのが開館したんだよ。その後オリオン座になったんだよ。その他、大正8年に前橋活動写真館、大正9年に大和劇場ができ、当時のまえばしの二大娯楽施設

ボ

だったんだよ。映画を中心に演劇、浪曲などがかけられていたようだ。当時の映画の集客力は大きかったので、榎町や周辺のまちには、直接的にも間接的にも大きく貢献したんだね。このような映画館があるまちの中で、陽が暮れると、先日訪ねた紺屋町、横山町と並んで、三ヶ町と呼ばれる歓楽街の様相を呈し、特に紺屋町同様、花街であり花柳界のまちであつたんだよ。

ク

榎町も昼夜問わず、活気のあるまちだったんだね。ところで、榎町の鎮守様は何なの？

おじいちゃん

あるまちの人が所有する地所の竹やぶか

ボ

らお地藏さまが出てきたんだ。このお地藏様を榎町にあった明聞寺に預け、まちの発展と町内の人の長寿を祈り、お祭りを行っていたそう。このお地藏さまは延命（えんめい）地藏尊とよばれ、長寿をかなえてくれるお地藏様として榎町の鎮守様となったんだ。その後、太平洋戦争後、この地藏尊を町内の中央部に移せば、参詣者も増え、またまちの活性化につながるのであるという事で、榎町にあった政淳寺に移したんだ。その後、明聞寺は富士見村へ移転し、また、昭和47年にニチイデパートの進出により、政淳寺は、このお地藏さまと一緒に田口町へ移転したんだ。今は、このニチイデパートはなくなり、有料駐車場になっていて、その東隣りには平成13年にリニューアルされた銀座公園があるね。

ク

その後、お地藏さまはどうなったの？

おじいちゃん

今は銀座二丁目通りの一角に安置されているよ。

ボ

今は竹やぶはないけど、お地藏さまは元のまちに戻ったんだね。そして、今もまちの人の長寿を願い、見守っているんだと思うよ。

ク

おじいちゃんもそう思うよ。

ボ

それにしても、まちの由来となっている

ク

榎の樹を、まちのシンボルとして、ランドマークとして、まちのどこかに植樹できないものかなあ。

おじいちゃん：では、次回は立川町に行ってみよう。

立川町

Tatekawa-cho



昭和 20 年代の弁天通り



ボ おじいちゃん：今日は立川町に行ってみよう。

ク ..なんて読むの？

ボ おじいちゃん：「たてかわちょう」と呼ぶんだよ。

ク ..いつからこの町名があるの？

ボ おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村と言っていたんだよ。その後、明治初年頃までは板屋町と言っていたんだよ。近くに広瀬川が流れていて、材木の輸送に便利だったところから、屋根を葺く割材や材木業者が集まり住んだところだったようで、昔は、茅葺（かやぶき）屋根の家が多い中、ここは、このような人々が住んでいたこともあり、板屋屋根の家が多く、先端をいく家屋の集まりであったようだ。そして、明治6年から板屋町を改称して立川町になったんだよ。

ク ..今はどこになるのかなあ。

ボ おじいちゃん：立川町は今の立川町大通りや弁天通り界隈だね。

ク ..今も通りの名前が残っているんだね。ところで、なんでそういう町名になったの？



熊野神社参道にあった劇場「前橋座」

ボ おじいちゃん：今の立川町大通りの真中を当時は村落風に清流が流れていたところから、立川町って付けたそうだよ。

ク ..今のまちの風景とは想像がつかないけど、のどかなまちだったんだね。その後の立川町だった様子を見てみたいよ。

ボ おじいちゃん：昔、製糸業が盛んだった頃、繭（まゆ）市場が開かれ、繭市場通りとも言われて大小の繭糸商が軒を並べ、生糸のまちの情報がいっぱいあった。また、立川町大通り界隈は徐々に色々な商店が建ち並んだ商人のまちになっていったんだよ。農機具製造、馬具製造、箆（ざる）製造、帳簿製造などの商店があったんだけど、今はほとんど、そういった商店はないね。ただ、昔の箆製造の商店が存続しているよ。店が通り沿いに二つ残っているよ。時代が流れて、昭和36年に立川町大通りは両



大正初期の立川町通り
中央 2 階建ては大川屋本店、奥の洋館は前橋電気館



昭和 30 年代初め頃 (詳細不明) の立川町通り
祭りの山車を町衆が囲む

ボ

ク

側の歩道に、県内最初のアーケードを完成したんだよ。弁天通りは中心商店街の北の玄関口として昭和 43 年にアーケードが完成されたんだよ。まえばしで初めての洋食屋として大正 9 年に創業したポンチというお店が、弁天通りの北角にあるよ。以前は先日訪ねた榎町にあったんだよ。

おじいちゃん

熊野神社と言うんだけど、出雲国八束熊野より分社したんだ。古来よりこの辺りは杜(もり)であって、熊野の森と言われ、まちの人たちからは、おくまん様と呼ばれているよ。この神社の東には、明治期に敷島座というのがあって、明治色豊かに、ずい分と町内を明るくしていたそうだよ。その後、明治 40 年、熊野神社参道に創設された前橋座という劇場があったよ。大正 2 年に前橋電気館と改名し、映画館となったんだよ。今までの劇場と違い、土足で二階まで上げられるということで評判となったんだよ。

ボ

ク

まちの中を歩くと、ずい分と大きなお寺が二つあるよ。

おじいちゃん

立川町には妙安寺と大蓮寺の二つの名刹であるお寺がある。妙安寺は、浄土真宗の寺院で、親鸞聖人の弟子成然によって開基され、前橋城主酒井重忠の要請により開山されたという古い歴史を誇るん

ボ

ク

だ。大蓮寺は、浄土宗の寺院で、昔、前橋城を守護するために鬼門にあたる場所として、今の臨江閣付近に建立されたんだ。その当時、このあたりは利根川が入り江のようになって流れ、増水の時にはうずを巻くため、虎ヶ淵と名付けられ、大蓮寺の山号はそのため虎ヶ淵にちなんで虎淵山と称したんだ。この増水により、利根川の氾濫が年々増し、洪水により虎ヶ淵のがけが次第に崩れ、虎ヶ淵の決壊により城下町に危険さえ感じられたため、前橋城主酒井重忠は虎ヶ淵の守護と城下町の安全を願い、大蓮寺へ弁財天を祀ったんだ。

ボ

ク

そういえば、弁財天様は水の神様なんだよね。

おじいちゃん

そうだね。もとは川の女神でもあるんだよ。その後、とうとう、お堂も危険にさらされたため、大蓮寺は、この弁財天と一緒に立川町へ移転したんだ。

ボ

ク

あれ？弁天通りって、弁財天様を祀ったことから付けられたの？

おじいちゃん

そのとおりだよ。今もお堂の中に弁財天が祀られていて、大蓮寺の縁日に当たる毎月 3 日に開催されている弁天ワッセは盛大だよ。

ボ

ク

町名は消えてしまったけど、昔からあるお店が残っていたり、今でも立川町大通りと弁天通りの名前が残っているし、美しい弁財天様も祀られていて、ボクとしてはうれしいよ。

おじいちゃん

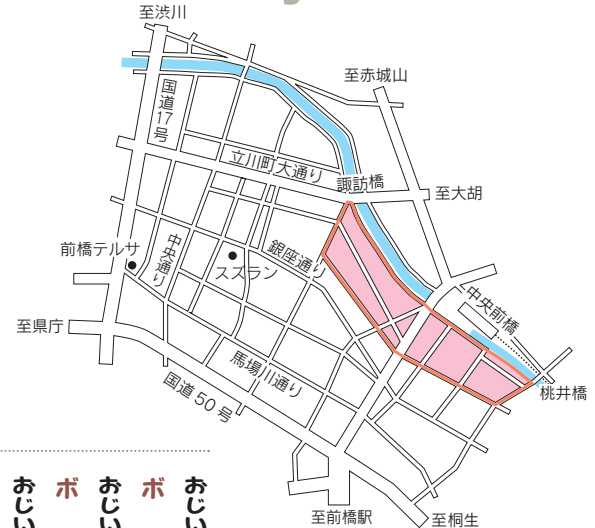
では、次回は萱町に行ってみよう。

萱町

Kaya-machi



昭和3年、上毛電鉄開通時の中央前橋駅



おじいちゃん…今日は萱町に行ってみよう。

ボ **ク**…なんて読むの？

おじいちゃん…「かやまち」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**…いつからこの町名があるの？

おじいちゃん…江戸時代からあるんだけど、江戸初期は天川原村と言っていたんだけど。昔は、芽屋町、萱屋町と言っていたんだよ。そして、萱町となったんだよ。

ボ **ク**…今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん…萱町は広瀬川右岸側にあたる立川町大通り東の諏訪橋あたりから前橋中央駅東の桃井橋までの間の界限で、細長くのびたまちなね。先日訪ねた榎町や立川町と隣接しているところだよ。

ボ **ク**…なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん…屋根葺（やねぶき）職人が多く住み、萱葺（かやぶき）の家が多かったところから、萱町って付けたそうだよ。

ボ **ク**…萱町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…明治初年頃までは、ほとんど田んぼであつたそう。明治20年頃には、広瀬川から水を引いたという車ッ堀という掘割があつたそうで、この流れを利用して水車が掛けられたそう。また、この水車を利用した精米所が建ち、いくつかの製

糸工場があつたそう。他のまちもいくつか、こういった風景があつたそうだけど、水の都まえばしの歴史を物語っているようだよ。先日訪ねた立川町の繭市場の盛り上がりと関わり、この界限の製糸も相間に活気があつたんだ。各家々の土間に繭（まゆ）の山があちこち、うず高く盛られていて、糸をくる機械の音が通りまで響き、また、なんともいえない匂いを漂わせていたそう。そして、中流くらいの製糸工場が季節毎の相場に神経を使いながら、繭の選択や糸の艶（つや）に念を入れていたんだ。このような過酷な労働の中、夕刻ともなれば、笑い声をたてながら、お洒落をした若い女工さんたちが活動館や小間物店、夜桜の公園へ足を向けていたんだ。また、夕方になると、バイオリン弾きが来て、女工さんに楽譜を売って、歌も教え、女工さんは糸をひきながら、その歌を唄ったものだよ。

ボ **ク**…糸のまちなまえばしの情緒が漂うようだね。

おじいちゃん…その後、萱町はどう変化していったの？
明治21年立川町に繭市場が開設され、明治27年紺屋町に米市場が開設され



昭和 30 年代、諏訪橋より千代田通りを望む
千代田通りを挟んで向かって右側が立川町、左側が萱町



今でも街角にひっそりと佇む萱町出世稲荷

ボ ク…一軒、格式のある古い医院があるよ。

おじいちゃん…また、このまちは、他のまちに比べて、たいへん医院の多い医師のまちだったんだよ。萱町は、まえばしの鬼門だといわれ、切った、張ったの医者はい、なんて話をする人もいるそうだよ。

ボ ク…今もまちの裏通りを歩くと、色々な小料理屋さんがあるね。

たりして、この付近が歓楽街化され、賑わいが増してくるようになり、これらの隣接するまちの裏通りには小料理屋さんや並んできたんだよ。そして、先日訪ねた紺屋町、横山町、榎町、立川町と隣接して中心街となったんだよ。さらに、広瀬川を隔てて昭和3年上毛電鉄の開通に伴い、前橋中央駅が開設され、一躍活況を呈するようになり、商店街が栄えるようになったんだよ。

おじいちゃん…昔からある医院だね。

ボ ク…萱町は、製糸のまちでもあり、医者もまちでもあり、そして中心街の一部とする歓楽街だったんだね。それにしても、中心街にしては、先日訪ねた紺屋町、横山町、榎町、立川町と比べて、ひっそりとしたまちのようだね。

おじいちゃん…もともと、静かな、そして清潔な感じのするまちだったんだけど、大きな敷地を擁する製糸工場や病院があったことにより、商店が繁盛する余地がなかったのだろう。そこが同じ中心街でも、隣接する他のまちと異なった雰囲気になっていった要因だろうね。今は、他のまちと隣接して歓楽街化されている一方、まちの北に、広瀬川の河畔緑地遊歩道が整備されていて、水と緑が豊富で、静寂のあるまちだね。

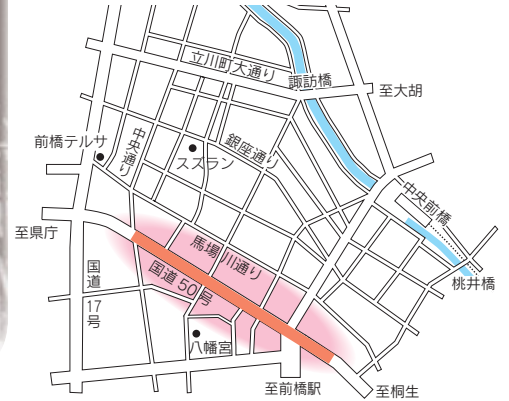
ボ ク…ところで、萱町には神社仏閣はあるの？
おじいちゃん…まちの北西端あたりに、稲荷社があるよ。昔、武士や町人の出世を祈願したというところで、出世稲荷と言ったよ。今でもまち角にひっそりと祀られているよ。

ボ ク…町名は消えてしまったし、萱草の家も製糸工場もなくなってしまったけど、広瀬川の河畔緑地遊歩道を歩くと、広瀬川の水音に癒されたり、遊歩道沿いの樹木の緑が美しく、心地よいまちになっているし、また、まち角にお稲荷様は残っているから、ボクとしてはうれしいよ。

おじいちゃん…では、今回は本町に行ってみよう。

本町

Hon-machi



明治40年代の本町通り

おじいちゃん：今日は本町に行ってみよう。

ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「ほんまち」と呼ぶんだよ。

ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は天川原村とっていただいんだけど、後に本町になったけど今も町名が変わらず、残っているまちだね。

ク：本町はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：国道50号線の一部である本町通り界限で、前橋駅前通りを北上したら差路から西へは中央通り南側入り口付近までの一帯だね。

ク：昔の本町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：本町は、織維都市として江戸期天保2年から生糸の購買をやった歴史を持つまえばしの、その草分けのまちだったんだ。そして、ここはまえばしの繭（まゆ）、糸市場の本場であった。本町通りは、大きな店構えをした商人の家が軒を連ねていて、荷物を積んだ馬車が連なっていて、また、商人を乗せた人力車も東西南北に行き交い、取り引きにおける商人たちの駆け引きがあり、まえばしを代表する市であったんだ。そして、四九の市といって、毎月四の日と九の日に市が開かれたんだ。特に、一月九日の初市は、もっとも賑わったそうだ。現在も毎年、この日に初市まつりが開催されているよね。さらに、本町通りは、沼田街道から江戸街道への道筋として、本陣や問屋などもあつて宿場の役目も果たしていたんだ。

ク：初市まつりは、ここからきていたんだね。そして、今も本町通り沿いに旅館がある

のもわかるよ。でも、まちの表情が変わっているよ。

おじいちゃん：このまちは、戦災復興により金融街として整備されたんだ。でも、生糸業から金融業に変わった事は偶然ではなく、商業資本の基盤をもっている事には変わりはないまちだと思っよ。

ク：確かに、本町通り沿いには銀行が点在しているね。その他に何かあるの？

おじいちゃん：現在ある前橋プラザ元気21の付近は、明治21年に明治天皇が東北御巡幸のおり、お泊りになった洋風建築の生糸改め所で、今も千代田通りを北に下りた途中に行在所跡としての記念碑が建てられているよ。

ク：生糸改め所って何？

おじいちゃん：当時、蚕種の値段も急騰し、まえばしと周辺の養蚕地帯は好景気に沸き返った。生糸の産地、まえばしの名は外国商人に目をつけられ、あれば売れる状態に、まもなく供給が追いつかなくなり、不良品を混ぜて送ったり、暴利をむさぼる輩も出てきたので、前橋藩は生糸商人の保護と、生糸の品質保持のために、この生糸改め所を設置し、直接、監督にあたり共に関加金を徴収することにしたそうだ。

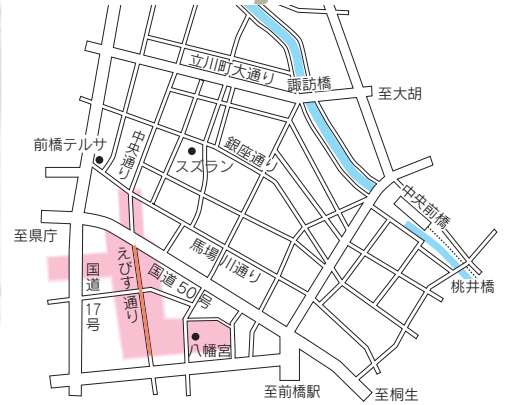
ク：そういう事があつたんだあ。それにしても、本町通りは昔と同様、往来が激しいし、商業資本の基盤には変わりがないとすると、このまちは昔の記憶を引き継いでいるんだなと思っよ。

おじいちゃん：では、次回は連雀町に行ってみよう。



連雀町

Renjaku-cho



大正時代の前橋八幡宮

おじいちゃん..今日は連雀町に行ってみよう。

ボ ク..なんて読むの？

おじいちゃん..「れんじやくちょう」と呼ぶんだよ。

ボ ク..いつからこの町名があるの？

おじいちゃん..江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村とっていったんだよ。

ボ ク..今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん..先日、訪れた本町の西端一帯と国道50号線の一部である本町通りの南側にあるえびす通り、前橋八幡宮周辺の界限だね。

ボ ク..なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん..連尺とは、荷を背負う背負こ(しよいこ)という運搬具、または荷をかつぐ連尺紐のことで、この荷物を背負って各地を往来し商いをする人々を指すようになり、やがて、連尺に荷を繋げたまま荷物を下ろし、そこに店を出し、集まり住んだまをいうようになったんだ。

ボ ク..でも、連雀と連尺は漢字が異なるよ。

おじいちゃん..本来、連雀とは渡り鳥の雀(すずめ)を指していて、連尺を用いる行商人が渡り鳥のように見えた事から、連雀と連尺の同義語として用いられるようになったんだ。

ボ ク..特に名の知れた商人がいるの？

おじいちゃん..町人の始祖といわれ、連雀頭を命ぜられた木嶋助右衛門という人がいて、連雀町に居を定めたそうだよ。以来、商人が店を出すときには、必ず木嶋家に挨拶をしたという。

ボ ク..当時の連雀町の様子を見たいよ。

おじいちゃん..先日、訪ねた本町のように、連雀町は二と七の日の市が開かれたんだ。ただ、こ

の市はやがて本町の四と九の市や新興商人の出現により脅かされ、本町以外の市開設が禁止され、例外として本町に接していた連雀町は、本町の市の連続として、その余り品の市場を立ててもよいとされる状態になったんだ。でも、連雀頭である木嶋助右衛門は市神を守護して市場を統制、支配し、近郊からの野菜市となって賑わったそうだよ。

ボ ク..まことに大きな神社があるね。

おじいちゃん..まえばしの総鎮守である前橋八幡宮だね。当時八幡宮の拝殿は、現在のNTTあたりにあり、本殿は前橋南部にあったというよ。城下町第一の要地として前橋城の大手門を築くにあたり、拝殿が城内に入ってしまうので、これを機会に拝殿と本殿を合わせて現在地に移したんだ。元々、ここは古墳塚で、付近は諏訪の森と呼ばれる杉山で諏訪神社が祀られてあった。だから、今もそうだけど社殿は古墳の墳丘に営まれているようだよ。

ボ ク..八幡宮はまちと何か関係があるの？

おじいちゃん..このまちは、城下町発祥の地であり、前橋八幡宮の門前町として、特に連雀町の有名な夜店やえびす講、朝市などで賑わったんだよ。

ボ ク..このまちは、行商人を束ねる人がいたり、

大手門として城を守る大切な場所であったり、まえばしの総鎮守様が祀られてあったり、まえばしには欠かせないところだったんだね。

おじいちゃん..では、次回は田町・相生町に行ってみよう。

田町・相生町

Ta-machi & Aioi-cho



昭和15年、田町における紀元二千六百年記念祝賀大祭



ボ おじいちゃん…今日は田町と相生町に行ってみよう。
ク …なんて読むの？
ボ おじいちゃん…「たまち、あいおいちよう」と呼ぶんだよ。
ボ …いつからこの町名があるの？
ク …田町は江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村といっていただよ。相生町も江戸時代からあり、江戸初期は天川原村といっていたんだよ。
ボ …今はどこになるのかなあ。
ク …田町は先日訪れた連雀町の南西側、群馬大橋線を挟むところ、相生町は先日訪れた本町の南側、ここも群馬大橋線を挟むところだね。
ボ …なんでそういう町名になったの？
ク …田町は江戸期の前橋城を中心として城下町を形造る際、田園の中に町割りしたことに由来するものようで、幕末に前橋城を再築するとき、武家屋敷の地割で代替地として提供され、新しく出来た町のようにだよ。そして田町と新田（しんでん）町または田新（たしん）町となっていたが、明治6年に合併して田町となったんだ。相生町は白銀町と鍛冶町に分かれていたんだよ。白銀町は金融質屋から名が起り、金銀細工職人が開いた町といわれているよ。鍛冶町はその名のとおり鍛冶屋が集まり住んだところから由来するんだよ。ともに城下町の名残をとどめる町名だったんだね。そして明治6年に合併して2つの町を夫婦になぞらえて、今まで以上に町が長く栄えるようにと、相生町と命名されたというよ。

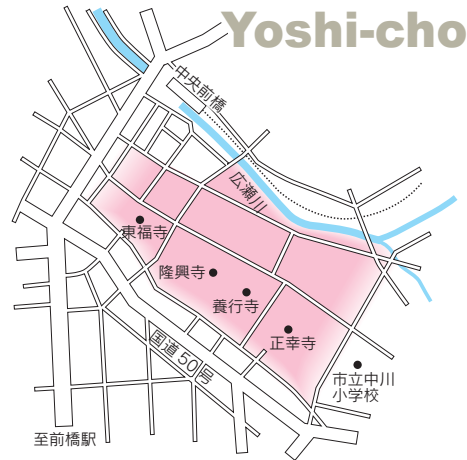
ボ …田町はその時の風景が思い浮かぶし、相生町はなにかロマンティックな感じがしているね。
ボ …昔の町名は今まで訪れた色々なまちもそうだけど、ちゃんと意味があったんだね。
ク …当時の田町と相生町の様子を見てみたいよ。
ボ …田町は城下のはずれにあつたもので、中心は現在の県道玉村線である玉村街道といわれた通りで、昔は賑やかだったそうだよ。また南にあるまちとまちの間に挟まれた南北に細長い一軒並びの片側だけのまちだった。相生町は町人町で、本町、連雀町に次いで栄えたまちだったんだ。となりのまちに歌舞伎座があつたころには、このまちは脂粉の匂いが漂い、なまめかしさもあつたというよ。その後、時代の推移につれて、桑町、堅町、横山町に繁栄の中心が移つたが昭和28年に群馬大橋線の開通とともに、その周囲には店舗や事務所がつくられるようになり、まち発展の兆しが見えるようになったんだ。
ボ …新しい道路が出来てまちの様子が変わる事によって、まちの性格も変わっていくんだね。
ボ …土地は生きているものだからね。
ク …まちの鎮守様はあるの？
ボ …鎮守様は本町、連雀町、田町、相生町である宮元四ヶ町の関係で八幡様となっているよ。
ボ …まちは色々変化があつたようだけど、八幡様があつてよかったよ。
ボ …おじいちゃん…では、次回は芳町に行ってみよう。



昭和27年、芳町のお祭りの様子

芳町

Yoshi-cho



おじいちゃん：今日は芳町に行ってみよう。

ボク：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「よしちょう」と呼ぶんだよ。

ボク：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は天川原村とっていったんだよ。そして、明治6年まで、近世の町人町として18の郷に分かれていたという意味で十八郷町となり、明治6年以降、芳町となったんだよ。芳町の由来は不明なんだ。

ボク：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：前橋駅前通り五差路から前橋中央駅までの通りの東側、北は広瀬川、南は馬場川を挟むように伸びているところで、現在は三河町界隈だね。

ボク：ク：当時の芳町の様子を見たいよ。

おじいちゃん：昔は竹やぶや萱に囲まれた荒涼たる村落であつたんだけど、江戸期には足軽屋敷も置かれ、前橋城の東南防衛のために配置された寺町とも言えるような立派な5寺院があり、広大な面積を占めているまちなんだよ。

ボク：ク：この5寺院はなにがあるの？

おじいちゃん：西から行こう。東福寺は神社の軒下にかけて祈願する時に前に垂らした銅を振って鳴らす金属製の仏具である鰐口（わにぐち）があるよ。側面から見ると口が目までさけた鰐を思わせるように見えることから、こう呼ばれるようになったさうだよ。600年ほど前に赤城小沼で発見されたもので、市内で最も古く市の文化財に指定されている。隆興寺は龍海院から派生した隠居寺として建てられ、境内に豊川稲荷があり、昔から特に祭りの時

には賑わっているさうだよ。養行寺は県

下唯一の法華寺であり、江戸期には城内

にあつて、その後現在地に移転したんだ。

境内にある鬼子母神様は有名ださうだよ。鬼子母神（オメコサマ）の御命講（オミエコウ）の祭礼が行われてきたんだ。また、境内に静御前の墓といわれる五重

の石塔があるよ。正幸寺は境内に白馬に

乗った勝軍地蔵が祀つてあり、火除けの

神とされている。また、先日訪れた連雀

町の町人頭である木嶋助右衛門の墓があ

るよ。成田山は今は無く名をとどめてい

るけど、当時は祈禱を主とするので檀家はもたなかつたさうだよ。

ボク：ク：細かく見ていくと色々あるんだね。その他に何か変化のある事があつたの？

おじいちゃん：30年から40年ほど前は大小の会社や工場、商店、学校などがあり、取りとめもなく並んでいたよ。特にこのまちから多くの学校が誕生し移転していったんだよ。明治6年養行寺の境内に開校したのが十八郷小学校で、のちの桃井小学校なんだ。後現在地に移り、その跡地に大正9年市立商業高校（現前商高）が開校し移転した後に昭和4年市立高等家政女学校（現市立前橋高）が開校し、昭和35年日吉町に移るまでここにあつたんだ。

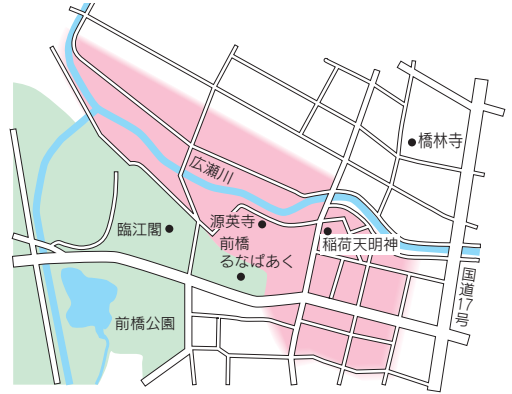
ボク：ク：色々目まぐるしく変わつていったんだね。それにしても、このまちは閑静な趣

きがあつて落ち着くね。

おじいちゃん：戦災にあわなかつたので、昔のまえばしの面影がよく残っているまちと言えるね。では、次回は神明町に行ってみよう。

神明町

Shinmei-cho



昭和3年、神明町事務所前（現 神明会館）にて御大典記念敬老会の様子

おじいちゃん…今日は神明町に行ってみよう。

ボ **ク**…なんて読むの？

おじいちゃん…「しんめいちょう」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**…いつからこの町名があるの？

おじいちゃん…江戸時代に、前橋城下の武家地であり、柳小路・神明小路・向小路といっていたんだよ。その後、これらの小路を併せ、小路名をとって明治6年に神明町とし、明治22年の町名変遷を経て昭和41年までそう呼ばれたんだよ。

ボ **ク**…なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん…まちに鎮座する神明宮にちなんで神明町って付けたそうだよ。

ボ **ク**…今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん…中央大橋線と国道17号線の交差点を北上した西側区域、臨江閣やるなばあくの北側区域だね。広瀬川を挟んで北と南に分かれているよ。

ボ **ク**…まちに鎮座する神明宮の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…先日訪れた堅町の鎮守様になっているけど、神明町に住む人たちも同じように鎮守様として人家を取り囲んで守護されてきたんだと思うよ。神明宮内は神明様を始め、中心的に信仰されてきた稲荷神社、雷電神社、菅原神社、三峰神社、猿田彦神社、銭洗弁財天が祀ってある。

ボ **ク**…当時の神明町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…江戸時代は最初に言ったとおり武家地なので、武家屋敷がずらりと立ち並んでいたんだ。その周りは未開な所が多く、葦の原や桑畑があちこち散見されていたんだ。その後時代が移り変わり、一般住宅になって勤め人や医師、小商人が定住していったんだ。そして公園や官庁に近く、繁華街へも程よい距離にあり、樹木が多

く、森閑とした住みよいまちなんだ。また、昔はまちの中を流れている広瀬川の水を利用した大きな水車が土提沿いにあって、利根の川瀬と水車の音がよく聞こえる晩は明日の天気は良いと伝えられてきたんだ。

ボ **ク**…この広瀬川に橋が3つ架かっているよ。

おじいちゃん…西側に架かっているのは石川橋で、詩人萩原朔太郎の詩を思い浮かべるような風景だね。真中に架かっているのは柳橋で、橋門柱は石材でできていて趣きがあるね。東側に架かっているのは雷神橋で広瀬川河畔遊歩道整備に合わせて新しくなっているね。

ボ **ク**…臨江閣やるなばあくの北側に水路やお寺があるよ。

おじいちゃん…この水路は風呂川というんだ。この辺は別名人取り川といわれ草深い粘土質の両岸が深々とそり立っていて、大人でさえ近寄り難い感じがあったけど、昔ながらの水路の風景で良い散歩道になっているし、臨江閣を見守るかのようにただずんでいる老松の並木はよく保存されているね。そして、風呂川を背にしたお寺は曹洞宗源英寺といって前橋城主酒井重忠公の創建、龍海院の隠居寺であり、市重要文化財として酒井忠世公画像が保存されているんだ。

ボ **ク**…昔ながらの風景のある広瀬側や風呂川、老松や散歩道、前橋藩縁（ゆかり）のお寺があつて閑静なただ住まいのあるまちだね。

おじいちゃん…どことなく前橋藩の名残を今に伝えてくれているまちだね。では、次回は曲輪町に行ってみよう。

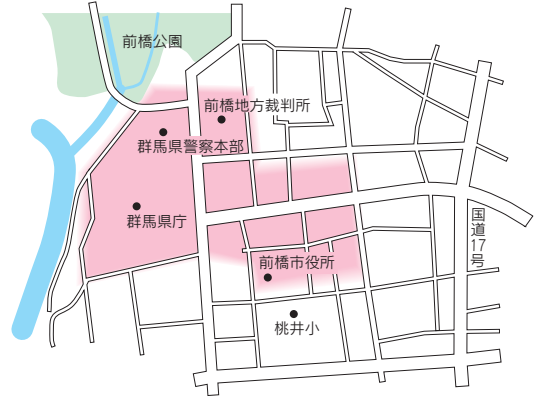


曲輪町

Kuruwa-cho



鐘楼（出典：ふるさとの思い出写真集「前橋」国書刊行会）



おじいちゃん：今日は曲輪町に行ってみよう。

ボ **ク**：なんて読むの？

おじいちゃん：「くるわちよう」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代は、前橋城下の武家地であり、広小路といっていて明治6年に曲輪町とし、明治22年の町名返還を経て昭和41年住居表示が実施されるまでそう呼ばれたんだよ。

ボ **ク**：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：ここにはかつて前橋城があって、城の本丸の跡に出来たまちなんだよ。曲輪には「郭」の字もあり、城・砦などの周囲に築いた石や土の囲い、また一区画をなした地域ということで曲輪町と呼ばれたんだよ。「くるわ」といわれた場合、人によつては「遊郭」のあった場所と勘違いされることもあって、住居表示の際「旧前橋城跡があり面影を残す」ということから「大手町」となったんだよ。また、前橋城の大手門は以前まであった前橋消防署前道路を隔てた南側付近にあったと推定されているよ。

ボ **ク**：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：群馬県庁通りを中心に東は豎町境の国道17号線、西は県庁、南は市役所、北は裁判所の周辺地域だね。

ボ **ク**：当時の曲輪町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：冒頭にも言ったように前橋城の本丸の跡に出来たまちだから群馬の、または前橋の政治を行っているまちとして、大部分は各官公庁街であり、部課長級の建物が占めていたんだよ。

ボ **ク**：今も残っているもの、今はなくなっちゃったものがあるよだね。まず今も残っているものは何があるの？

おじいちゃん：今も残っているものは、昭和3年竣工の群馬県庁舎（現昭和庁舎）、昭和5年竣工の群馬会館がある。また、市の史跡に指定さ

れた車橋御門跡があるよ。区画整理によって西側の石垣が東へ動かされたため、門の大きさがわからなくなっちゃったが、ここに積まれた石垣のみごとなことだから、さぞ立派な門であったと想像されるね。その他、建物は変わったけれど県議会議事堂、市役所、市立図書館、裁判所などがあるね。

ボ **ク**：今はなくなっちゃったものは何があるの？

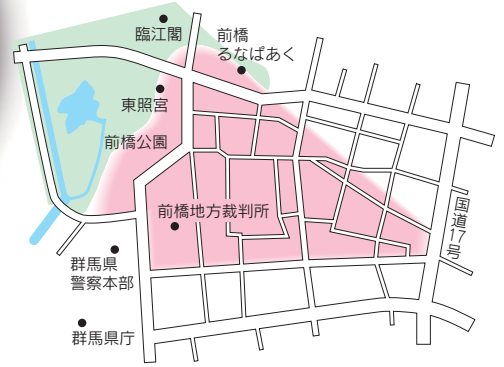
おじいちゃん：前橋城の堀や土手はほとんどなくなっちゃったね。昭和3年竣工の群馬県庁舎（現昭和庁舎）をつくるということで、大正15年に県庁正面の土手が崩されたんだ。だいぶ市民の反対があったようだが、前面だけということでも市民も納得したようだ。残った堀や土手も昭和30年代ごろまでは、まだ県庁裏にも残されていたが、県庁の拡張とともに、ついに埋め立てられてしまった。今では県庁北西の老松と「前橋城址碑」が建てられている付近の土手にわずかにその面影をとどめている。また、以前まであった前橋消防署のところに鐘楼があった。昼夜24時の時刻を報じ、時を非常に知らせる目的があったそうさ。この大鐘は江戸期の元禄17年に造られたもので、昭和17年まで時鐘として打たれていたが、戦時中供出されサイレンに変わり、昭和34年に消防会館建設にあたり取り壊されたんだ。その他、警察署、電話交換局、青果市場があったね。

ボ **ク**：周辺の開発によって前橋城の土手が崩れ、その土を堀に埋め立ててしまったんだね。前橋城の遺構がなくなっちゃってしまいい残念に思うよ。

おじいちゃん：おじいちゃんもそう思うよ。でも残ったものは大切にしたいし、すでになくなってしまったものは、なつかしい思い出にしておきたいね。では、次回は北曲輪町に行ってみよう。

北曲輪町

Kitakuruwa-cho



前橋公園とるなばあくを結ぶトンネル

おじいちゃん…今日は北曲輪町に行ってみよう。

ボ ク…なんて読むの？

おじいちゃん…「きたくるわちよう」と呼ぶんだよ。

ボ ク…いつからこの町名があるの？

おじいちゃん…先日訪れた曲輪町と同じく、江戸時代は前橋城下の武家地であり、柳原十人小路、島田曲輪といつていて明治6年に北曲輪町とし、明治22年の町名返還を経て昭和41年住居表示が実施されるまでそう呼ばれたんだよ。

ボ ク…なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん…先日訪れた曲輪町と同じく、ここにもかつて前橋城があつて、城の北側、三の丸のあったところに出来たまちなんだよ。

ボ ク…今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん…先日訪れた神明町と曲輪町を挟んだ中に位置しているよ。西は東照宮や臨江閣、北は前橋城の水の手にあたる風呂川と中央児童遊園るなばあく、東は関口整形外科までの範囲だね。

ボ ク…当時の北曲輪町の様子を見たいよ。

おじいちゃん…昔は住宅街であり、また医者と弁護士と官吏のまちだったんだよ。

ボ ク…まちを歩くと病院や法律事務所、知事公舎、報道支局があるから昔と変わっていないね。あれっ？まちの中に水路が通っているよ。

おじいちゃん…この水路は神明町境の風呂川から流れていて、紺屋町の馬場川に合流しているんだよ。かつて前橋城の堀跡だったのだからね。

ボ ク…そうなんだあ。あとは何があるの？

おじいちゃん…前橋公園も北曲輪町に入るね。さちの池の北に戦時中は市民農園があつて、戦時中食糧不足を補っていたそうだよ。また、競輪場や市民プールもあったね。今は区域を拡げて前橋公園のエリアになっていて、ここに隣接する臨江閣は戦時中として昭和29年新庁舎が出来るまで市役所として使っていたんだ。この住所が柳町1番地で、元来広瀬川の端に柳の木が多かったためそう呼ばれ、柳町はここしかなく、北曲輪町に含ま

れていたんだ。

ボ ク…今も当時のままの建物が残っていて大切にしていきたいね。

おじいちゃん…臨江閣の南側にひょうたん池のある日本庭園があり、ここから東へ通じる玉石が積まれた小さなトンネルがあるけど、昔から変わっていないね。昔の子供たちは、このトンネルに入って大きな声で叫んだんだ。するとその声が響くので面白がつて大声を出したものだよ。実は詩人萩原朔太郎も北曲輪町の生まれで、このトンネルのそばに「波宜亭（はぎてい）」という茶店があり、よく通ったそうだよ。大正10年に前橋市の公園計画に伴い、店は閉じられたんだ。

ボ ク…今もトンネルや臨江閣、ひょうたん池のある日本庭園があるのだから、この茶店も残っていたら良かったと思うよ。

おじいちゃん…このトンネルの先に中央児童遊園るなばあくがあるよ。江戸時代の頃、ここは前橋城の空濠（からばり）だったんだ。当時、普段この空濠は武士たちの武道を訓練したところで、いざ合戦となれば、土手を切り風呂川の水を流し込んで敵の来襲を防いだというよ。この空濠を市の公園としたのは大正10年のことで、それ以前は赤城牧場だったんだ。県の勧めで搾乳所として設けられ赤城牧社といったんだ。そして昭和29年前橋グラウンド・フェアーが開催された時、その第2会場としてつくられ、終了後児童遊園として残され、今日に至っている。

ボ ク…だから今でも窪地になっているんだね。それにしても、トンネルの中に入り、ひょうたん池のある日本庭園と、るなばあくを両方眺めるとタイムトンネルに入った気分になり、何となく哀愁漂う風景に映るよ。この玉石が積まれたトンネルはいつまでも残しておきたいね。

おじいちゃん…そうだね。では、次回は南曲輪町・石川町に行ってみよう。

※前橋公園とるなばあくを結ぶトンネルは、平成22年11月からの市道拡幅工事に伴い撤去され、新たに造り直される予定です。



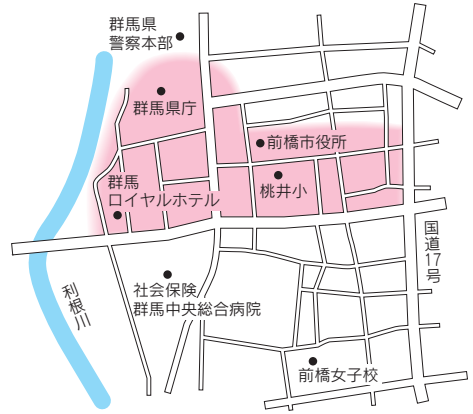
南曲輪町・石川町

Minamikuruwa-cho & Ishikawa-cho



昭和 25 年頃の様子。中央に青果市場の長い屋根。その上に前橋天主教会、その左に前橋放送局の鉄塔を眺む

(出典：(株)国書刊行会「ふるさとの想い出」 写真集 前橋)



おじいちゃん…今日は南曲輪町と石川町に行ってみよう。

ボ…なんて読むの？

おじいちゃん…「みなみくるわちよう、いしかわちよう」と呼ぶんだよ。

ボ…いつからこの町名があるの？

おじいちゃん…先日訪れた曲輪町や北曲輪町と同じく、江戸時代は前橋城下の武家地であり、水曲輪、内柿ノ宮とっていて明治6年に南曲輪町、また、外柿ノ宮、石川小路とって明治6年に石川町とし、明治22年の町名返還を経て昭和41年住居表示が実施されるまでそう呼ばれたんだよ。

ボ…なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん…先日訪れた曲輪町や北曲輪町と同じく、ここにもかつて前橋城があつて、城の南側、二の丸のあつたところに出来たまちなんだよ。柿ノ宮は前橋城南西に配置された曲輪で柿ノ宮門として城の南面を防御していたんだ。石川小路は酒井氏の上級家臣石川氏が居住したところから名がつき、柿ノ宮に抜けるところに石川門があり、そこから石川町と名づけたんだよ。

ボ…今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん…南曲輪町は先日訪れた曲輪町の南に位置しているし、石川町はそのまた南に群馬大橋線を挟んで位置しているよ。

ボ…当時の南曲輪町と石川町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…昔は両町とも池や田畑、そこに士族だった旧家があつたりしたそうだよ。特に利根川河畔一帯にかなり広い桑畑などが見受けられたが、この辺りに住む旧士族の人たちが内職であつた養蚕を営んでいたんだよ。また、現在の群馬ロイヤルホテル付近に前橋放送局があつた。昭和6年に前橋市と前橋商工会議所とで放送局の促進運動を展開し、昭和8年に放送が

開始されたんだ。

東京方面から汽車で利根橋の鉄橋を渡ると、左側に放送局の2本の高い鉄塔が見えたそうで、もう前橋駅はすぐだ、と思つたそう。

時代が過ぎて、南曲輪町には副知事、部課長級、前橋署長等の官舎や市営住宅、前橋青果市場や県下の製パン界を風靡したフランスパンがあつたね。今でもあるのは本願寺の説教寺である清光寺、明治6年学制が布かれて以来で相当に古い歴史を持つている桃井小学校、明治27年以來の歴史を持つカトリック教会ともいう前橋天主教会だね。前橋天主教会は今でも、天空に突き刺さる二基の尖塔の美観は、見るものの心に思わず安心感を与えているね。

ボ…昔にあつた遺構は何かあるの？

おじいちゃん…桃井小学校の西側あたりに前橋城の三日月御門があつて、古い地図を見ると、その半分が地籍として残されているが、今では跡形もないね。かつては、小さいながらも堀跡の池がたくさんあり、特に、学校の南側に三日月濠などいくつかの養鯉の池があつたが、今はすっかり埋立てられて住宅地となっている。ちなみに三日月という名は土手と堀とで三日月形の障壁が築かれていたので名づけられたが、これは敵に城内を見透かされない用心であつたんだ。

ボ…このまちには前橋城の南を守る門や土手、堀、池があつたんだね。今は残っていないけど、残しておきたい話であるし、唯一まち中にある寺、古い歴史を持つ学校、まちの風景に馴染んでいる教会は大切にしていきたいね。

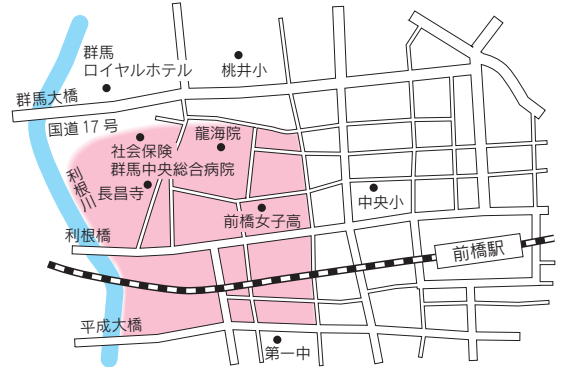
おじいちゃん…そうだね。では、今回は紅雲町に行ってみよう。

紅雲町

Kouun-cho



龍海院、「まえばし」の今昔を静かに見守る



おじいちゃん…今日は紅雲町に行ってみよう。

ク…なんて読むの？

おじいちゃん…「こううんちょう」と呼ぶんだよ。

ク…いつから、そしてなんでそういう町名になったの？

おじいちゃん…江戸期から「紅雲」という文字の記録があり、紅雲分とあるよ。江戸期から明治22年まで紅雲分村と言っていたよ。「分」は本来ある人の知行を示すのが普通であるから紅雲と号する人の知行が村名になったものと考えられるが記録にはそれらしい人物は見当たらないね。ただ戦国時代の上杉・武田両氏が石倉城・厩橋城の攻防戦を行った当時、その家来の武将たちの持分が村名になったという説がある。その後、前橋町が誕生した明治22年から43年まで紅雲分という大字名となり、特に明治25年からは前橋市の大字になったんだ。そして、明治43年から現在まで、紅雲町となったんだ。このまちでは紅（くれない）色の美しい雲のたなびく事があったことどう呼ばれている、と話すまちの人がいたそうだよ。

ク…だいぶ古くからずっとある地名で今も町名が残っていてロマンチックな話もあるんだね。ところで、このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん…北は先日訪ねた南曲輪町、石川町、西は利根川沿いまで、南は平成大橋通りまでの範囲だね。

ク…当時の紅雲町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…昔は市中央部から遠いため発展しなかったけど、住宅街の中、まちの西端にある利根橋を経て石倉、元総社、高崎などへ通じる重要な地域だったんだよ。前橋駅にも近いだけあって会社や工場は揃っていたんだよ。今はもうないけれど阿部産業、川隅木工、前橋煉瓦などがあつたんだ。

ク…その中で特に目をひくものはあるの？

おじいちゃん…現在の群馬中央総合病院の前は前橋中学校

(現前橋高等学校)で、その前は前橋煉瓦があつたんだよ。色々な建物の煉瓦はこの土地の土で作られていたそうだよ。距離的にも近いかつての煉瓦積みだった前橋駅や現在も煉瓦積み前の前橋刑務所の煉瓦は、確かではないけれど、この前橋煉瓦で作られたものかもしれない。

ク…仮にそうだとしたら、地元の土で煉瓦を作り主要な建物に使った事は意義のある事だと思っよ。

おじいちゃん…そうだね。いわゆる地場産業だね。

ク…何か神社仏閣があるの？

おじいちゃん…前橋城主酒井家の菩提所である龍海院があるよ。最初、岩神に建てられたが火災により現在地に移したんだ。境内には歴代城主の墓所があつたり、初代市長下村善太郎の墓があり、ともに市の文化財に指定されているよ。また、利根川河畔に望む長昌寺があり、太田道灌が彫つたと言ひ伝えられている黒焦げの大黒様や先日訪ねた南曲輪町の清光寺との墓地争いの折に出来た仲良し地蔵が本堂側に立っているよ。さらにまちの鎮守様とされる人丸様と呼ばれる厳島神社があるよ。柿本人麿を祀っており万葉歌碑があることどう呼ばれている。創立は明らかではないが、鎌倉時代以前から祀られている古いお宮のようだよ。また、神社西にある利根橋は昔、大水で流出したため、利根川下流の横手という所に祀ってあつた水天宮を今後水害が起きないようにと、この境内に移して祀つたんだよ。

ク…まちの中には由緒ある神社仏閣が色々あり、どこも静寂な雰囲気や落ち着く場所だね。このような神社仏閣や煉瓦づくりの建物、そして昔からあるこの町名は大事にしていきたいね。

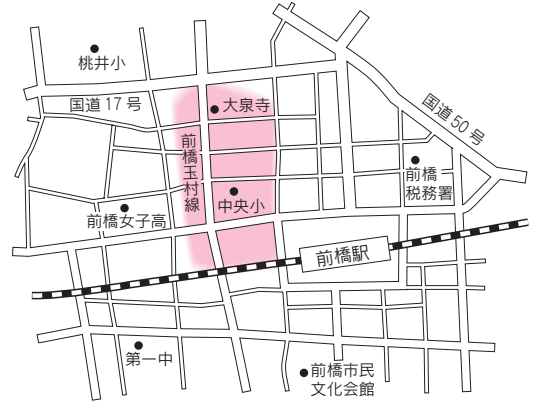
おじいちゃん…そうだね。では、次回は堀川町に行ってみよう。



まちを見守る大泉寺、蓮を型どる本堂

堀川町

Horikawa-cho



おじいちゃん：今日は堀川町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「ほりかわちょう」と呼ぶんだよ。

ボク：いつから、そしてなんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期は町人町の南に置かれた武家住居区域で川窪・砂堀といっていたんだよ。この川窪・砂堀を合わせ、両字の一字ずつを採って堀川町とし、明治7年から昭和41年までこう呼ばれていたんだよ。

ボク：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪れた南曲輪町や石川町と隣接し、県道前橋玉村線と平行に連なっているまぢだよ。

ボク：当時の堀川町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：江戸期は前橋藩でも中流の藩士が住んでいたところであるが、明治維新を迎えるにあたって、生計を立てるために鯉を飼ったといい、昭和10年頃までは鯉や金魚を飼育する池があちこちに見受けられていたというよ。そして、この鯉は市中の料理店はもとより、伊香保や磯部の温泉地へも出し、珍味だったそう。

ボク：鯉が泳いでいた池のあるまぢかあ。もうどこにもないね。

おじいちゃん：夕照に沈みながら先日訪れた紅雲町の龍海院の杜に巢食う青鷺(あおさぎ)が、この鯉を目当てに飛んできて、水面をかすめる音にまちの人達の耳目をおどろかせていたものさそうだ。

ボク：他に何かあるの？

おじいちゃん：明治30年に青果市場が開かれ、敷地600坪余、周囲に小屋を造り、時季になると毎朝近郷近在から農夫が野菜や果物を運び込み、午前中は車でいっぱいになるほど賑わっていたそうだよ。また、まぢ中に杜若(かきつばた)を始め、藤や菖蒲が

咲競う児玉園があつて名物だったんだよ。茶菓子まで出たといい、賑やかだったそうだよ。残念ながら明治40年頃廃園となったんだ。ひところまであつた釣堀ののんびりした風景も影を消してしまつた。

ボク：もうこの二つはないね。でも、まだ残っているものは何かあるの？

おじいちゃん：県道前橋玉村線沿いの東京電力は明治43年に開業した利根発電が大正10年に東京電燈に合併され、古い歴史を持っているんだよ。また、このまちで有名だった鈴木裁縫学校は、鈴木シゲさんによって明治36年に創立され、多くの子女を育てきたよう、現在も専門学校として継承されているよ。

ボク：今でも意思を受け継いで存続しているんだね。ところで何か神社仏閣があるの？

おじいちゃん：東本願寺系の門徒衆寺である大泉寺があるよ。前橋大空襲の戦災にあい、楼や庫裏共に焼失したが、御本尊の阿弥陀如来像と色彩細やかな聖徳太子像は難を逃れ、現在も安置されているよ。また、現在の本堂は仏教の象徴である蓮(はす)を型どつて異色の近代建築になっている。ちなみに、昔はこの寺から龍海院までの道は寂しく、明治初年頃でも狐の通い道といわれるほどであつたというよ。

ボク：なくなつてしまつたもの、現在も存続しているもの、色々変化のあるまぢだけど、ご本尊様と聖徳太子様がこのまぢを守っているのかな。それにしても聖徳太子像は重厚で赴きのある立派なお姿をしておられるね。

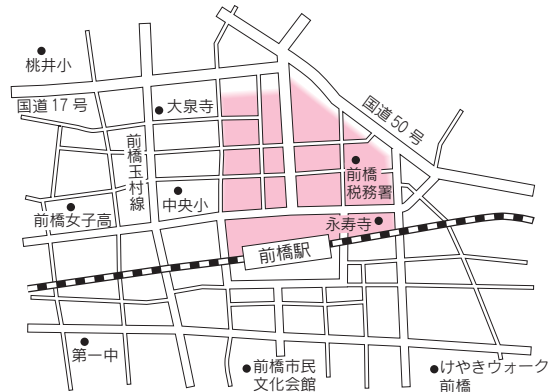
おじいちゃん：そうだね。では、次回は田中町に行ってみよう。

田中町

Tanaka-machi



昭和初期の前橋駅。馬車鉄道が当時をしのばせる
(出典：(株)国書刊行会「ふるさとの思い出」写真集 前橋)



おじいちゃん…今日は田中町に行ってみよう。
ク…なんて読むの？
おじいちゃん…「たなかまち」と呼ぶんだよ。
ク…いつから、そしてなんでそういう町名になったの？
おじいちゃん…江戸期は前橋城下武家地で田中小路、南田中小路、多津塚といっていたんだよ。「幕末の前橋城再築後、田地を埋め立て邸宅とした所」というから、昔は田地だったよ。その田地の中という流れで田中という地名が生まれたのかな。また、前橋駅前通りは田中小路と呼んでいたんだよ。さらに、多津塚はこの土地にある永寿寺の境内で刀剣が出土したといわれたことから別名龍塚と呼ばれ古墳だったんだよ。そして、明治7年から、先日訪れた堀川町の砂堀の一部と田中小路、南田中小路、多津塚を合併して田中町となり昭和41年までそう呼ばれたんだよ。
ク…このまちはどこになるのかなあ。
おじいちゃん…前橋駅前通りを挟んで東西に家並みがある所で表町一丁目、二丁目界限だね。
ク…当時の田中町の様子を見たいよ。
おじいちゃん…幕末頃、田中小路は道を挟んで東西に100石から200石前後の武家屋敷が並んでいたんだよ。その後、士族屋敷になつてからは、傘張り、提灯張り、団扇張りにいそいでいたそうだ。また、このまちな物は明治31年創建の歌舞伎座と築山をめぐる池と藤と菖蒲で有名だった天野園だね。藤の開花時には高崎や伊勢崎からも見物が多く来たようだけど、二つともなくなってしまうた。
ク…このまちは前橋駅があるね。
おじいちゃん…明治22年に両毛線が全線開通され、その時に前橋駅が誕生したんだ。開設にあたって、前橋停車場用地として士族の土地が売られ、線路工事の土盛りに龍塚の土が使われたといい、その堀跡に池が出来て養鯉池に

なったそうで、養鯉業者もかなりあったというよ。その後、駅舎は約40年の使用により改築の必要性が生じ昭和2年に前面改築が行われたんだ。この駅舎はモダンで市民に新しい時代の到来を感じさせたようだ。
ク…駅舎はまた変わっているね。駅前広場や駅前通りはどうなっていたの？
おじいちゃん…両毛線は貨物路線も併設していたため、明治39年に前橋駅から渋川まで馬車鉄道が開通し、共進会の前年明治42年に電化、昭和29年まで市中を走っていたよ。また、大正8年に前橋駅から高崎駅まで乗合バスが運行するようになり、駅前には人力車が見られたよ。昭和40年に駅前広場に噴水が建設され当時関東最大の噴水は注目を集めたそうだ。バスの待合所であったのか広場には多くの人が見られたんだ。通り沿いには旅館や飲食店、運送業などが立ち並び賑わっていたんだ。昔は赤城山を遠景にして、正に前橋の表玄関だけのことがあったんだけど、今はビルが立ち並び、まったく見えな
ク…でも駅前通りのケヤキ並木は立派だね。
おじいちゃん…このケヤキは昭和24、25年に植えられたもので、戦災復興事業の一環だったんだ。その記念に建てられたのが、駅前広場にある「平和・建設」の像なんだ。
ク…現在、駅舎を始め、駅前広場は南も北も、すっかり整備されたけど、昔のほうが情緒あふれるまちだったような気がするよ。駅前通りは昔のような賑わいもなくオフイス街といった感じだし、赤城山も見えないしね。でも、ケヤキは大きく成長し、緑の大きなトンネルになっているし、まちのシンボルだと思っから、これからもずっと残していきたいね。
おじいちゃん…そうだね。では、次回は前代田町・市之坪町に行ってみよう。

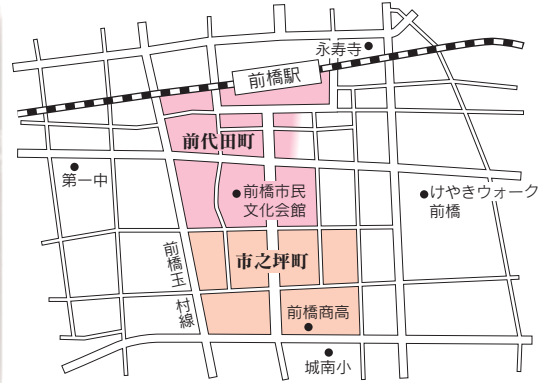


前代田町・市之坪町

Maeshirota-machi & Ichinotubo-machi



往時の名残りとして名称が生きている市之坪公園(上)と代田神社



おじいちゃん：今日は前代田町と市之坪町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「まえしろたまち、いちのつぼまち」と呼ぶんだよ。

ボク：いつから、そしてなんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年は前代田村、市之坪村、明治22年から昭和26年は前代田、市之坪という前橋市の大字名、昭和26年から昭和42年は前代田町、市之坪町と言っていたよ。前代田は、この辺一帯を代田の郷と称していたが、前橋城築城にあたり地区を南北に分けたため、南の地をこう指すようになったんだよ。ちなみに北は北代田町といい、現在も町名が残っているよ。市之坪は古代日本で実施された土地区画整理制度であった条里制の名残りである地名で、縦横6町の区画を1町ごとに区切って1×36坪とし、その最初に割り振られたのが「一の坪」であって、そこからこう呼ばれたんだよ。

ボク：だいぶ古くからずとある由来のある地名なんだね。このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪ねた田中町にある前橋駅の南側一帯で、前代田町は現在の南町三丁目、市之坪町は現在の南町四丁目目の界隈だね

ボク：当時の前代田町と市之坪町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：前代田では明治34年に県立農事試験場が岩神から移転されたが、昭和23年にその跡地に県立ろう学校が設立されたんだよ。また、大正元年にガス会社が建ち、そのタンクは町内の目標になったんだよ。今はもうタンクはなく、県立ろう学校は他町に移ったし、前橋駅の真南に

あった城南小学校も市之坪に移り、現在は他町に移ったね。その代わり、現在は前橋駅南口による開発で大きく開けているね。市之坪では昭和4年に芳町から前橋商業学校が移転したんだよ。さらに昭和2年に前橋盲学校・桐生盲学校・高崎聾啞(ろうあ)学校を統合し、このまちに県立盲聾(もうあ)学校が設立されたんだよ。現在は県立盲学校になっているね。いずれにしても、両町とも当時は文京地区だったんだね。

ボク：当時はこんなにも多くの教育施設があったんだね。その他に何かあるの？

おじいちゃん：前代田では前橋市民文化会館の北側に代田神社があるよ。境内には淡島神社、八坂神社、雷電神社、猿田彦神社があり、特に淡島神社は女の人の守護神で信仰を高め、製糸が華やかだった大正8、9年頃には千人講もつくられ、祭日には参詣者が後を絶たないほどだったというよ。

ボク：町名に困んだ施設はあるの？

おじいちゃん：市之坪に市之坪公園があるよ。

ボク：昔の町名を使って公園名になっているのはうれしいね。

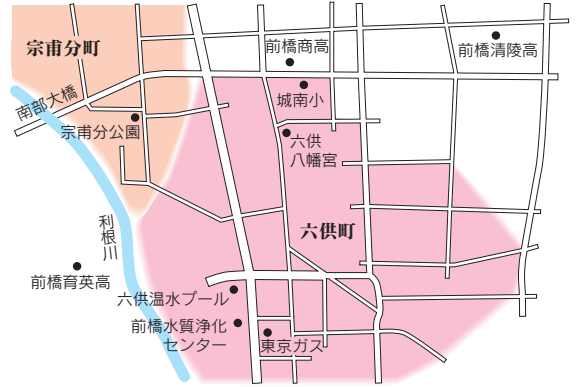
おじいちゃん：そうだね。

ボク：このまちは色々な教育施設が変動したり、前橋駅南口の開発により表情が変わったりしているんだね。そして由来のある町名が消えてしまったり残念だけど、昔からある神社が残っていたり、昔の町名を使って公園名として残っているので大事にしていきたいね。それにしてもガスタンクはまちの目標物として残しておきたかったなあ。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は六供町・宗甫分町に行ってみよう。

六供町・宗甫分町

Rokku-machi & Souhobun-machi



旧町名の面影を今に残す、六供八幡宮（上）と宗甫分公園

おじいちゃん…今日は六供町と宗甫分町に行ってみよう。

ボ **ク**…なんて読むの？

おじいちゃん…「ろつくまち、そつほぶんまち」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**…いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん…江戸期から明治22年は六供村、宗甫分村、明治22年から昭和26年は六供、宗甫分という大字名、特に六供は明治34年から前橋市の大字名、宗甫分は明治25年から前橋市の大字名、そして六供は昭和26年から現在の前橋市の町名六供町として残っていて、宗甫分は昭和26年から昭和42年は宗甫分町と言っていたよ。

ボ **ク**…どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん…六供は源義経が奥州へ落ち延びた際6人の供をこの地に残したともい、または木幡城主がこの地に足をとどめ、6カ寺を建て六句村といったのが地名のはじまりといわれているよ。宗甫分は宗甫という人が持っていた土地ではないか、そして、おそらく上杉と武田が厩橋城で争奪戦をしたころの、どちらかの武将ではなかったかといわれているよ。

ボ **ク**…このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん…宗甫分は先日訪ねた紅雲町の南側一帯、六供はその南側一帯の界限だね。

ボ **ク**…当時の六供町と宗甫分町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…六供町も宗甫分町もその昔、高崎方面から利根川を渡る古道である「あずま道」に沿った村落で、まえばしにとつて古くからの交通の要地として栄えたようだ。特に宗甫分では江戸期、前橋領内を利根川に沿って渡船地点に設けられた関所（その後番所）が設置され、兩岸を船で結ぶ重要な要地として知られていたんだ。その後、明治元年に関所が廃されると交通量の増大に伴って、地元有志で、いつまでも安全であるよ

うにと就安橋と名づけ架設したがその後流失し、再度幾度かは渡船を通した。六供は昭和21年戦災者・引揚者のために市営住宅が150戸建てられたんだよ。ここに生川が流れていたことから、自称生川町とか生川住宅ともいわれていたんだよ。現在でも生川という交差点があるね。現在でもある施設としては下水処理場、清掃工場、温水プールがあるね。宗甫分は赤煉瓦の前橋刑務所があるね。古くは監獄署といわれ、明治18年に起工、21年に落成したんだ。周囲の赤煉瓦はそのまま名詞として使われているね。両町とも昭和53年の南部大橋の開通もあって、かつての田園地から近代都市にふさわしいまちに様変わりしたね。

ボ **ク**…ここは交通の重要な土地だったんだね。また、赤煉瓦の前橋刑務所は一際目立つ存在で良いね。ところで神社仏閣はあるの？

おじいちゃん…六供には源氏の守護神といわれる八幡様が祀られているよ。境内には八坂社、神明宮、稲荷社があり、境内には八坂社、神明宮、稲荷社が祀られているよ。そして、その南には寿延寺があるよ。平安初期先日訪れた前代田に創建され、慶長年中厩橋城の南、現在の中央病院附近に移され、さらに明治11年現在地に移転したんだ。宗甫分には利根川の水害に対する守護神である水神様が祀られ、水波能女命が祀られているよ。昔の利根川はがけ崩れにあいつつ東進し、今の河川中ほどにあつた水神様も現在地に至り明治21年に社殿が再建されたんだ。

ボ **ク**…町名に因んだ施設はあるの？

おじいちゃん…先日訪れた市之坪と同じように宗甫分公園があるよ。

ボ **ク**…まちは様変わりしたけど、昔からある町名が残っていたり神社仏閣はあるし昔の町名を使った公園があるからうれしいね。

おじいちゃん…そうだね。では、次回は諏訪町に行ってみよう。



「諏訪」の名を今に残す「諏訪神社」(上)と「諏訪橋」

諏訪町

Suwa-machi



おじいちゃん..今日は諏訪町に行ってみよう。

ボ ク..なんて読むの？

おじいちゃん..「すわまち」と呼ぶんだよ。

ボ ク..いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん..江戸期から昭和40年の町名で、江戸期は前橋城下町人町、明治22年前橋町、明治25年前橋市の町名だったんだよ。また、このまちの裏には江戸期から明治7年まで諏訪町裏という町名があつて、前橋城下武家地の一つだったんだよ。

ボ ク..長い間の町名だったんだね。どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん..まちの中にある諏訪神社によるものと思われよ。

ボ ク..この神社は昔からあるの？

おじいちゃん..先日訪ねた連雀町にある前橋八幡宮の場所は、以前は古墳塚で、付近は諏訪の森と呼ばれる杉山の木立があり、諏訪神社が祀られてあつただけど、この神社を前橋城の鬼門の押さえとして、このまちに移したんだよ。まちの人たちはお諏訪様と呼んでいるよ。

ボ ク..このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん..広瀬川左岸にあり、対岸の立川町から続く立川町通りの東へ行く道を挟んだ南北界隈だね。

ボ ク..当時の諏訪町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん..江戸期は職人が多く住み、鍛冶屋、豊刺、大工、桶師、板割、屋根萱葺、長板割がいたそうだよ。特に鍛冶職人の比率が高いことは注目される。また、この辺りはかつて利根川が流れていたために水に恵まれていたようで、明治期には、製糸家や多く糸のまちを代表する製糸所が幾つもあつただよ。

ボ ク..何か伝記のようなものはあるの？

おじいちゃん..昔、一人のみすぼらしい旅僧が、このまちを通りがかり、急にノドがかわき、両側の

家並みの裏にある桃の木が目に入り、桃を恵んでくださいと言った。最初の家からは断られ、次の家の主人からは、快く頂き、お礼を言つて立ち去つたそうさ。あくる日から、断つた側の桃はや二桃ばかり、もう一方の側はおいしい桃ができるようになった。このみすぼらしい旅の僧こそ弘法大師さんでした、という話があるよ。

ボ ク..そういう話があつたんだあ。その後、何かあつたの？

おじいちゃん..実は80年ほど前まで徳川三代将軍の頃から連綿と続いている町内きつての旧家である杉沢家の大屋敷に1町ばかりの桃畑があり、たいへんおいしい桃であつたそうだよ。地質が適していて、水質が良く、その結果果実の育ちが良かったようだけど、弘法大師さんのおかげかもしれないね。

ボ ク..ボクもそう思うよ。そして昔は桃のまち？

おじいちゃん..68番地に馬市場があつたんだよ。350坪ほどの広さで明治31年3月まで開かれ、364頭も扱つたというよ。また、56番地に桑市場もあり、毎年5月から6月に開かれていたようだよ。ちなみに馬市場のあつたところには大胡行きの乗合馬車の発着所があつたんだよ。

ボ ク..町名に因んだ施設はあるの？

おじいちゃん..昭和4年に出来た広瀬川に架かる諏訪橋があるよ。また、今でも、まちの人たちは立川町通りに続く道を諏訪町通りと呼んでいるね。さらに諏訪湯という銭湯が以前まであつたね。

ボ ク..諏訪神社や諏訪橋が残っているからうれしいね。今は宅地化されているから難しいけど、桃畑が復活されるといいなあ。それにしても諏訪湯に入りたかつたなあ。

おじいちゃん..そうだね。では、次回は一毛町に行ってみよう。

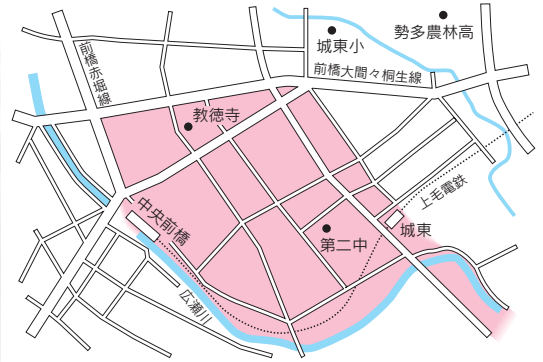
よう。

一毛町

Ikke-machi



教徳寺とお虎の供養塔



おじいちゃん：今日は一毛町に行ってみよう。

ボ **ク**：なんて読むの？

おじいちゃん：「いつけまち」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年は一毛村、明治22年から一毛という前橋町の大字名、明治25年から前橋市の大字名、そして明治43年から昭和40年は一毛町と言っていたよ。

ボ **ク**：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：一説にはこの辺りは一毛作地帯だったから、そう呼ばれたとあるよ。また、この地は利根川の河床で流れの変化によって中洲ができ、牧草が繁茂し牧畜が盛んに行われたことで、牛馬等の毛からそう呼ばれたとあるよ。

ボ **ク**：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：上毛電鉄中央前橋駅の東側一帯、城東町三丁目、四丁目界隈だね。

ボ **ク**：当時の一毛町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：大正時代に前橋北部耕地整理事業によって大きく変わったけれど、戦前は迷路のまちと呼ばれ、しばしば方向を間違える人がいたそうだよ。また、上毛電鉄中央前橋駅の北側、広瀬川沿いにたくさん一杯呑屋さんが出ていて、上電横丁の名で多くの人々に親しまれていたんだけど、今はその姿もなくなり一変してしまったね。

ボ **ク**：神社仏閣は何かあるの？

おじいちゃん：教徳寺というお寺があるよ。昔の人たち

は僧念房と言っていて、立川町にある大蓮寺の隠居寺で、前橋城にまつわる話の中「お虎」の供養塔があるよ。そして、

戦後昭和26年8月5日、戦災7周年を期し、一毛町、諏訪町、隣接するまちの人々の浄財によって石像の親子地蔵が建てられ、現在も祀られているよ。

ボ **ク**：このまちに有名な人はいるの？

おじいちゃん：このまちで忘れてはならない彫刻家の細谷而楽(三郎)という人がいたよ。東大寺、唐招提寺、興福寺、新薬師寺などの仏像や彫刻を修理復元をした人なんだよ。特に新薬師寺の十二神将の一つ波夷羅大将を復元し、今日国の重要文化財に指定されている。そして現在、県道前橋赤城線沿いに生家跡の碑が建てられているね。

ボ **ク**：偉大なる人としてまちの人だけでなく、前橋市民としても誇りだね。ところで町名に因んだ施設はあるの？

おじいちゃん：上毛電鉄中央前橋駅の次の駅に一毛町駅という駅名があったけど、今は城東駅になってしまったね。他にももう町名の名残はないね。

ボ **ク**：残念だね。せめて駅名は残しておきたかったなあ。でもお寺は残っているし、偉大な人の碑はあるので、大切にしていきたいね。

おじいちゃん：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。

ボ **ク**：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。

おじいちゃん：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。

ボ **ク**：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。

おじいちゃん：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。

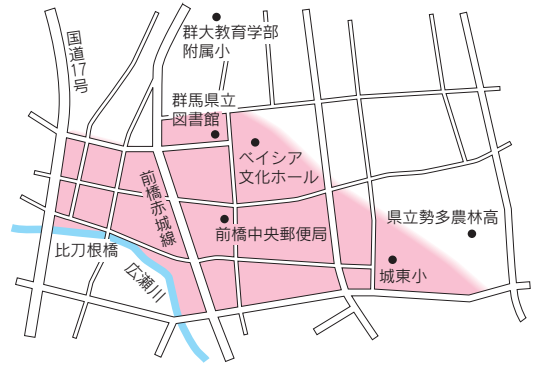
ボ **ク**：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。

おじいちゃん：そうだね。では、今回は栄町に行ってみよう。



栄町

Sakae-cho



交水社（出典：国書刊行会「ふるさとの想い出 写真集 前橋」より）

おじいちゃん：今日は栄町に行ってみよう。

ボ **ク**：なんて読むの？

おじいちゃん：「さかえちょう」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：先日訪ねた一毛町の一部を独立して、昭和3年7月に栄町が誕生したんだよ。

ボ **ク**：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：一毛町から独立してまちが発展し、栄えるように命名されたのかな。前橋の他に高崎、伊勢崎、桐生、館林にも栄町があるね。

ボ **ク**：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：広瀬川に架かる比刀根橋南側から東へ、県道前橋赤城線を通り過ぎ、先日訪ねた諏訪町の北側界隈までだね。

ボ **ク**：当時の栄町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：比刀根橋付近に、かつて勢多会館のあったところが栄町1番地で、ここを起点として町内の地番が付けられたんだよ。この勢多会館は昭和9年12月に落成、ここには勢多地方事務所があったんだけど、その後消えて駐車場となり、今はマンションが建っている。昔のまちの様子は数えるほどしか人家は少なく、多くは一面の水田と桑畑であったというよ。また、広瀬川には河岸があつて舟運があつたんだ。旭館というところの裏通りに舟着場があつたようで、この旭館は舟宿であつたようだ。さらに、このまちにあつた大製糸工場である交水社は、糸のまちまえばしの象徴だった。明治10年営業所を創設したのが始まりで、市内の産糸所を集め広瀬川の水路を利用して水車を回して繰糸を行い、出来た荷は舟に積んで出し

たというよ。

ボ **ク**：色々な事で広瀬川は役立っていたんだね。勢多会館付近の広瀬川に橋が架かっているよ。

おじいちゃん：栄町と隣接するまちを結ぶ比刀根橋だね。昭和8年6月に出来たんだよ。今の利根川の流れに対し、元の流れ、すなわち今の広瀬川を「比刀祢川」と呼んでいたんだ。こんなところから、ここに架けられた橋という事で橋の名になったんだよ。改装される前までは、戦時中の焼夷弾や爆弾の破片の傷跡が生々しく、刻まれてあつたそうだよ。

ボ **ク**：何か施設はあるの？

おじいちゃん：城東小学校があるね。開校したのは昭和2年4月1日で、戦前の昭和17年にはプールもできたんだよ。また、小学校付近にゴロゴロ山があつたそうで、古い人たちは思い出の場所であつたというよ。また、前橋郵便局があつたり、近くには県立図書館や県民会館があつたりして、町名のとおり、ますます栄えたまちといえるかもね。

ボ **ク**：町名に因んだ施設はあるの？

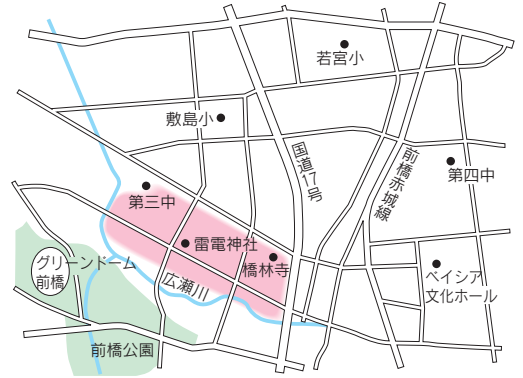
おじいちゃん：施設はないけれど、まちの中に栄通りがあつて、今もまちの人たちはそう呼んでいるよ。

ボ **ク**：町名の名残はほとんどないけれど、栄通りの名が残っているからうれしいね。そして、町名のとおり栄えたまちになったんだね。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は向町に行ってみよう。

向町

Mukai-cho



雷電神社の脇にひっそりと佇む「鈴木藤次郎工場跡」の碑

おじいちゃん…今日は向町に行ってみよう。

ボ ク…なんて読むの？

おじいちゃん…「むかいちょう」と呼ぶんだよ。

ボ ク…いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん…江戸期当初は岩神村であって、そのうち向町になり、昭和40年までそう呼ばれたよ。

ボ ク…どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん…江戸期の頃、お城の近くの人たち、特に広瀬川以南の人たちが、広瀬川の川向こうにあるまちと言っていたところからそう呼ばれ、前橋城下町人町の1町だったんだよ。

ボ ク…このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん…先日訪れた神明町北側で広瀬川左岸を東西に延びる界限だね。

ボ ク…当時の向町の様子を見たいよ。

おじいちゃん…一本道路に沿って延びたまちで、今この道路は名残としてあるね。この細長い町並みを称して「長町八丁」とか「八町長町向町」などと言っていたそうだよ。

この道はかつての沼田街道で、広瀬川に架かる厩橋を渡り、先日訪れた堅町から立川町や本町へ抜ける唯一の道だったんだ。道の真中には小川が流れ、他所から城下町に入る旅人は、この川で手足を洗い身支度を整えたというよ。1761年に19歳にして江戸に出た塩原太助も、この道を通ったかもしれない。それにしても、当時の家並と賑わいを除けば狐や狸の棲むところで、田畑や藪の多いところだったようだね。

ボ ク…前橋城下に入るための大切な場所だったんだね。その後はどうなったの？

おじいちゃん…明治22年8月、渋川に通じる現在の国道17号線が出来て、このまちも変わり、以前ほどの賑わいはなくなったようだ。でも明治40年頃には、広瀬川の流れを活用した1丈(約3m)もの水車7ヶ所もあり、製糸が盛んになったんだ。

ボ ク…神社仏閣はあるの？

おじいちゃん…通り沿いに雷電神社があるよ。落雷が多いために祀ったんだよ。昔は向町へ行けば雷が落ちないと信じていた子供たちの姿があったというよ。その東には橋林寺があるよ。この寺には、多くの宝物があったんだけど、火災によって焼失してしまっただよ。でも青銅製直径12・7cmの鰐口があり、貴重なものが残っているようだよ。また、明治6年に県下4番目の小学校ということで第4小学校として、敷島小学校がこの橋林寺に開校したんだよ。

ボ ク…このまちに有名な人はいるの？

おじいちゃん…このまちで忘れてはならない鋳物師の鈴木藤次郎という人がいたよ。雷電神社入り口の隣は旧家と工場があったようで、ここに工場跡の碑が建てられているね。

ボ ク…町名の名残はないけれど、名残のある道があったり、ひっそりとたざむ神社仏閣、有名な人の碑があったりしているからうれしいね。

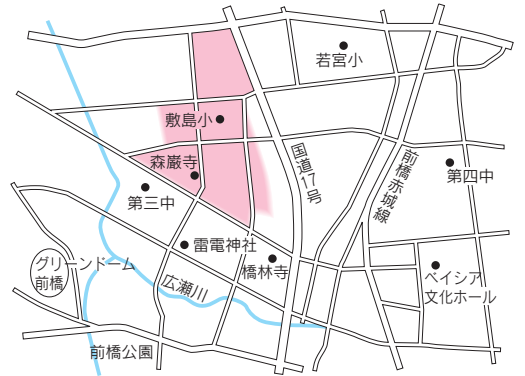
おじいちゃん…そうだね。では、次回は萩町に行ってみよう。



現在は住宅街となった萩町に佇む森厳寺

萩町

Hagi-machi



おじいちゃん：今日は萩町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「はぎまち」と呼ぶんだよ。

ボク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年まで萩村と呼ばれたよ。そして明治11年南勢多郡に所属し、明治22年から43年まで萩という大字名だったんだけど、特に明治22年に前橋町の大字名、明治25年に前橋市の大字名だったんだ。続いて明治43年から大正13年には萩小路という前橋市の大字名となり、大正13年から昭和40年まで前橋市の町名として萩町となったんだよ。

ボク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：由来は不明だけど、植物名として吾妻町萩生と同じく萩の生じるところの意によるものかな。

ボク：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪れた向町北側、前橋第三中学校通り北側一帯界限だね。

ボク：当時の萩町の様子を見たいよ。

おじいちゃん：萩小路には100〜200石取りの土族屋敷が40軒ほどあったというよ。明治の初め頃までは、これらのほか土着の農家が4、5軒あるのみという寂しさだったんだよ。現在は完全に住宅街となっているね。

ボク：神社仏閣はあるの？

おじいちゃん：住宅地の一角に森厳寺（しんがんじ）があるよ。この寺には、かつて香葉観音（こうようかんのん）があつて安産に効くといわれ崇敬されていたけど、戦災で惜しくも失ってしまったんだ。この観音様に関係して萩の城がこの付近にあつたんだよ。「上毛国風土記」に「萩の城、城

主不明、観音寺と呼ぶ所である」と記されているようで、もしかしたら観音寺の跡に森厳寺（しんがんじ）が建てられたかもしれない。

ボク：その他になにかあるの？

おじいちゃん：「前橋新風土記」に元和山という石山があり、昔は利根川の河床だったので、田畑をつくるため石を積み上げた山だったといい、子供たちのよき遊び場であつたそうぞ森厳寺（しんがんじ）あたりにあつたようだよ。また、狐が出没したそうだよ。それから先日訪れた向町の橋林寺（きょうりんじ）に創設した敷島小学校は大正9年現在地に新築移転し、昭和4年火災により全焼したけど、昭和48年めでたく開校100周年を迎え、現在も住宅地の中にあるね。他に旧町名にちなんで公開緑地の萩公園や銭湯の萩の湯があるよ。

ボク：このまちに有名な人はいるの？

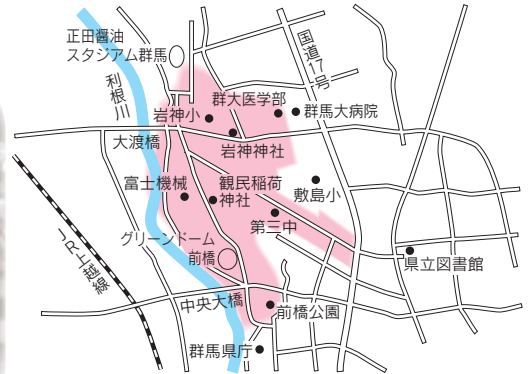
おじいちゃん：このまちで忘れてはならないのは堀康雄という人で、昭和7年から17年までの10年間助役を勤め、引続いて昭和21年までの4年8ヶ月、第11代目の市長を勤められ、戦前から戦中、そして戦後という前橋にとって未曾有の時代に市長として大変苦労され、今日の前橋へと引継いだ人なんだよ。

ボク：町名の名残はほとんどないけれど、昔の町名を使った銭湯や住宅街にたたずむお寺、歴史のある小学校があるし、大変苦労された市長を輩出したまちとして、誇りに思っていていきたいね。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は若神町に行ってみよう。

岩神町

Iwagami-machi



上：イチヨウの木に囲まれた飛岩
下：5つの社がある観民稲荷神社

おじいちゃん：今日は岩神町に行ってみよう。
ボ：ク…なんて読むの？
おじいちゃん：「いわがみまち」と呼ぶんだよ。
おじいちゃん：ク…いつからそういう町名になったの？
ボ：江戸期から明治22年まで岩神村と呼ばれたよ。明治22年から43年まで岩神という大字名で呼ばれ、明治22年からは前橋町の、明治25年からは前橋市の大字名だったんだ。明治43年からは岩神町となり、現在もそう呼ばれているよ。昭和40年からは1〜4丁目となったんだよ。
ボ：ク…どうしてそういう町名になったの？
おじいちゃん：まちな中に国の天然記念物に指定されている「岩神の飛石」が岩神稲荷として神社が祀られていて、これにちなんで呼ばれているよ。
ボ：ク…この石はどこから来たの？
おじいちゃん：この石というか岩は現在の駐車場あたりに堆積していた地層の中から約2万年前の火山泥流により、この近くまで押し流されてきたものと思われる。さらに、その後の利根川の洪水によって、今の場所まで運ばれてきたと考えられる。岩神の飛石はおじいちゃんやボクたちにまえばしとその周辺にある自然や歴史とその営みを教えてくれるね。
おじいちゃん：ク…岩神の飛石の由来について教えてよ。
ボ：岩神稲荷は飛石稲荷とも呼ばれているよ。地表に出ている部分が高さ9・6m、最大周囲60m。赤褐色で縞状の複輝石安山岩質溶結凝灰岩があり、里人たちがこの岩を割ろうとしたところ、血がほとばしり出たので稲荷を祀り、この岩を御神体として祀ったというよ。
おじいちゃん：ク…このまちはどこになるのかなあ？
ボ：先日訪れた向町と萩町を挟んで西側へ延び、前橋工業高校跡地沿いの南北通りまで、北側は大渡橋通り界隈までだね。
ボ：ク…当時の岩神町の様子を見てみたいよ。

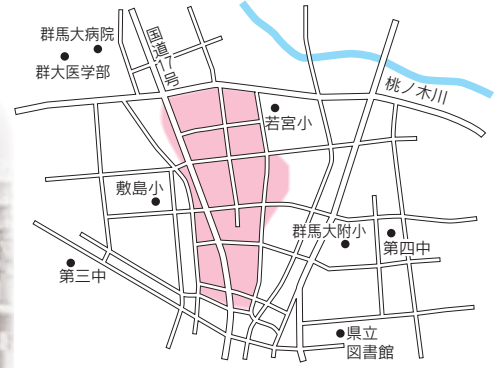
おじいちゃん：飛石のすぐ東はかつての沼田街道でその昔、上杉謙信が厩橋城を攻めた時や沼田藩主が参勤交代した時、また塩原太助が江戸に行つた時にそれぞれこの道を通つたことだろうね。また、大渡橋があるけど、昔は王渡といっていたんだよ。大昔上毛野国群馬県を治めていた豊城入彦命（とよきいりびこのみこと）という王様が赤城神社を祀る時に渡られたことから名づけられたのかな。この大渡には利根・吾妻方面から江戸に材木を運ぶためのいかだが組まれ、この岩神が中継地点となつたりこの地は重要な地点だったため関所が置かれたというよ。明治には大渡製糸所ができ、全国から有名人が見習いに来たというよ。
ボ：ク…岩神稲荷神社の他に神社仏閣はあるの？
おじいちゃん：酒井藩主が川越から前橋に移つた当初、龍海院をこの岩神に造つたけど、火災にあい先日訪れた紅雲町に移したんだ。また、前橋工業高校跡地の向側に観民稲荷神社があるよ。1601年酒井重忠公が前橋城主となつた時、城に水を引き込む風呂川の改修にあつて、その時護神として祀つたのがこの神社の始まりだそうだよ。その後、1690年酒井藩主が神社境内に「観民亭」という別荘を造り、たびたび来て家臣にも開放し藩文化の中心地でもあつたようだよ。ここから観民の名が残っているようだよ。境内には、殿島神社弁財天、金毘羅宮、秋葉神社、天満宮、水天宮が祀つてあるよ。
ボ：ク…今でも町名は残っているし、飛石や稲荷神社がまちのシンボルとして保存されているし、観民稲荷が風呂川とともに静かなところであれいいね。これからのような町名や天然記念物、神社仏閣を大切にしていきたいね。
おじいちゃん：ク…そうだね。では、次回は国領町行ってみよう。



上：増築中の丸登製糸場（大正7～8年頃）
右側の道は現在の国道17号
下：現在では国道沿線に多くの店が建ち並ぶ

国領町

kokuryou-machi



おじいちゃん：今日は国領町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「こくりょうまち」と呼ぶんだよ。

ボク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年まで国領村と呼ばれたよ。明治22年から43年まで国領という

大字名だったんだけど、特に明治22年に

前橋町の大字名、明治25年に前橋市の大

字名だったんだ。続いて明治43年から国

領町となり、現在もそう呼ばれているよ。

昭和41年からは1～2丁目となったよ。

ボク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：大昔、律令制度という仕組みができて国

としての組織が整い、いまでいう県庁に

あたる国府が各地に置かれ、そこには国

司・郡司が任命されたんだ。この国司が

直接支配した土地を「国衙領」といい、

これが地名の由来となったんだよ。また、

1664年の「新田検地帳」に国領村の

名があるそうだよ。

ボク：由緒ある地名なんだね。

おじいちゃん：伊勢崎市の東部にも同じ地名があるよ。

ボク：このまちはどこになるのかなあ？

おじいちゃん：国道17号線を挟んで先日訪れた萩町の東

向側一帯界限だね。

ボク：当時の国領町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：前橋城が再築される時、この地にお侍さ

んが住む武家地が割り当てられ、その中

に薬師小路、東薬師小路、西薬師小路と

いう名があったんだ。この薬師小路の名

は、この地に薬師様があり、前橋城主が

たいへん崇敬され氏子の生活安泰祈願所

とされたことから、この名が付いたと考

えられているよ。明治22年にいまの国道

17号線である渋川へ通じる新道が開通し

てから大きく発展したんだよ。それまで

は十軒小路と薬師小路と土着の農家だけ

の寂しい村落だったんだよ。

ボク：大きな施設とかあったの？

おじいちゃん：いまの国道17号線沿いに、先日訪れた萩

町地内の丸登製糸、国領町地内の交水社

国領工場、のちに郡是製糸と前橋市を代

表する製糸工場があったよ。でも時代の

移り変わりとともに、かつての製糸全盛

期の姿はもうないね。それに代わって、

新しい店舗が建ち並び、ここにはかつて

のまちと対照的なまちづくりが進んでる

ね。

ボク：国領という由緒ある町名を絶やすことな

く、そして製糸による前橋市の中心地で

あったように、新しいまちづくりの中で、

より一層の新しい前橋の中心になるまち

の発展を期待したいね。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は才川町行ってみ

よう。

才川町

Saigawa-machi



上：現在の才川通り 古い建物が何軒か残る
下：萩原朔太郎歌碑（才川緑地公園）
かつての賑わいを覗うことができる



おじいちゃん…今日は才川町に行ってみよう。

ボ **ク**…なんて読むの？

おじいちゃん…「さいがわまち」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**…いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん…江戸期から明治22年まで才川村と呼ばれたよ。明治22年から43年まで才川という大字名だったんだけど、特に明治22年に前橋町の大字名、明治25年に前橋市の大字名となり、続いて明治43年から昭和40年まで才川町と呼ばれていたよ。

ボ **ク**…才川町の小字はあったの？

おじいちゃん…明治10年の小字名を見ると、尺司・立虫・水深・飯玉・若宮・諏訪（諏訪小路・一才小路）・下諏訪（一才小路・佐久間川）があったんだよ。

ボ **ク**…才川町の名前はどのように出てくるの？

おじいちゃん…1664年、前橋城主酒井忠清に賜った知行目録に勢多郡125ヶ村中に才川の名があるよ。

ボ **ク**…このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん…先日訪れた国領町、特に若宮小学校から東側界限、南側からは、群馬大学付属小学校北側界限だね。

ボ **ク**…当時の才川町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…赤城道の西を平行し、石井県道につながる道は才川通りといって、現在もそう呼ばれているよ。この通りは、当時の富士見村や旧南橋村と前橋をつなぐ唯一の道で、明治時代は主産業である製糸生産の中心地で、たいへんな賑わいを見せたようだよ。特にこの場所に前橋名物の一つであった玉糸市場があつて、桐生や足利、秩父あたりからも来て、一日の通行人が2万人を数える賑わいがあつたそうだよ。また、桃ノ木川と佐久間川に挟まれ、水利に恵まれていることから大正8、9年頃には40もの製糸工場があつたんだ

ボ **ク**…市場はなくなつたけど通りの名前は残っているんだね。他に町名にちなんだ施設はあるの？

おじいちゃん…才川通り沿いに才川緑地公園があるよ。入口の右側に「才川町の沿革と石碑の由来」の石碑があるね。この石碑には昔の村から町への状況や才川通りについて詳しく書かれていて、また、郷土の詩人萩原朔太郎による才川町の情景の詩が書かれているね。これには、昭和60年、前橋乾燥場跡地に小公園が設置され、往時を慕う地域住民一同により、才川緑地公園と呼ぶとともに、萩原朔太郎の「才川町」の石碑を建設、この地域の輝かしい歴史と文化を後世に伝承することを提唱した、とある。

ボ **ク**…まちの中に町の沿革や詩の石碑があるのはすばらしいことであり、今後も石碑の内容どおり後世のために残しておきたいね。ところで、神社仏閣はあるの？

おじいちゃん…飯玉神社があるよ。境内に「お杓（しゃくし）様」があり、1mほどの杓子が建っているね。昔から子供の百日咳、しゃっくりを治す神様として親しまれているよ。また、養蚕期におけるネズミ除けとして霊験あらたかなものがあるそうだよ。

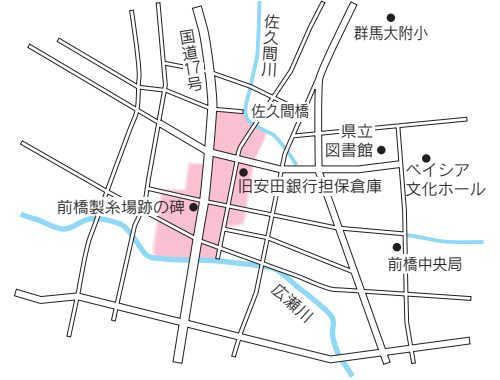
ボ **ク**…今でも才川通りの名や才川緑地が残っていて、町の沿革や詩の石碑があるし、まちの人から親しまれている神社があるのでうれしいね。これからも大切にしていきたいね。

おじいちゃん…そうだね。では、次回は細ヶ沢町に行ってみよう。



細ヶ沢町

Komakazawa-machi



上：佐久間川
細ヶ沢町の由来にもなった
下：前橋製糸場跡の碑
国内で最初の洋式器械製糸工場があった

おじいちゃん：今日は細ヶ沢町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「こまかさざわまち」と呼ぶんだよ。

ボク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から昭和40年までそう呼ばれていたよ。江戸期は前橋城下の町人町のひとつで、明治22年には前橋町、明治25年からは前橋市の町名となったんだよ。

ボク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：1684年に著された「前橋風土記」には古未加佐波とあるよ。また、細ヶ沢の名は、町の北側を流れる現在の佐久間川の古名を駒ヶ沢川と呼んだところからきているようだよ。

ボク：でも「細」と「駒」で字が違っているね。

おじいちゃん：明治31年の「前橋案内」に「昔時駒ヶ沢と称し…」とある。かつて佐久間川の河岸に馬市場があり、以前訪れた一毛町同様によくの馬が飼われていたところから、馬を意味する「駒」をとって「駒ヶ沢川」と呼ばれるようになったんだ。そして広瀬川に比べて細い川という意味から『駒』が『細』となり、その流域を細ヶ沢町と言うようになったというよ。

ボク：そんな由来があったんだね。このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：以前訪れた豎町の北側、国道17号線と広瀬川と交差する厩橋から北上したところ、特に国道17号線の東側界限だね。
ボク：当時の細ヶ沢町の様子を見たいよ。

おじいちゃん：馬市場の他に、繭市場が開かれていたよ。

市日には高崎その他の商人が出張開店し賑わったといい、近郷近在の村の女性が玉繭・屑繭の小売をするという他の市場では見られない市場として前橋名物の一つであったというよ。また、桑市場が細ヶ沢町68番地で開かれ、毎年5月下旬から6月上旬にたいへんな賑わいであったというよ。翁藤のあったところといわれ以前訪れた田中町の天野の藤、石川町の八重藤とともに名物藤で、のち前橋公園の臨江閣下の池の端に移植され、今日その面影をしのんで記念碑が建ててあるね。

ボク：市場がいつぱいのまちだったんだね。ところで国道17号線沿いに碑が建っているよ。

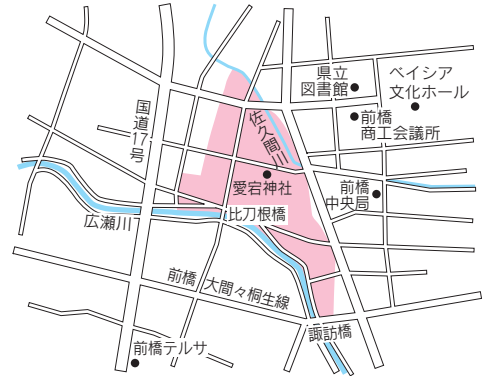
おじいちゃん：明治3年に日本最初の器械製糸工場がこのまちに建てられたんだよ。官富岡製糸場開設の2年前なんだよ。この製糸場で技術を学んで多くの人々が、それぞれ郷里に帰り、製糸を開業、全国的に製糸が発展したんだよ。

ボク：日本の製糸業に大きく寄与したんだね。そして繭市場、桑市場、日本最初の器械製糸工場といい、糸のまちまえばしの原点がこのまちの一角から発展したんだね。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は小柳町に行ってみよう。

小柳町

Koyanagi-cho



上：愛宕神社
火難・魔除けの神として崇められる
下：かつての柳座（写真中央）
「上州小唄」の発表会はここで行われた



おじいちゃん：今日は小柳町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「こやなぎちょう」と呼ぶんだよ。

ボ：ク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：明治6年から昭和40年までそう呼ばれていたよ。近世では町人町である広瀬河岸、細ヶ沢新町を明治6年に合併して小柳町となり明治22年に前橋町、明治25年から前橋市の町名となったんだよ。

ボ：ク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：「直泰夜話」に広瀬川辺りに柳が多かったことからそう呼ばれたとあるよ。小柳町ではないけど、上流には柳原発電所や柳橋もあるね。

ボ：ク：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪れた細ヶ沢町の東側、広瀬川の北側、広瀬川に架かる比刀根橋を北上する小柳町の表通り界隈だね。

ボ：ク：当時の小柳町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：明治の中頃まで小柳町の表通りは、赤城への登山道であり、富士見や才川町へ通じる道として賑わったんだよ。でも、当時は田んぼが多く、農家が散見される程度のものであったんだよ。もちろん電灯もなく、道路も9尺、3メートル弱でそこそこの凸凹道だったんだけど、明治43年の連合共進会が開催されるにあたって電灯もつくようになり、一層賑わいが増したというよ。

ボ：ク：神社仏閣はあるの？

おじいちゃん：愛宕神社があるよ。前橋城主の崇拝するところとなり、庶民の火難・魔除けの神

としてあがめられていたよ。

ボ：ク：先日訪れた細ヶ沢町のように市場はあったの？

おじいちゃん：このまちなにも繭市場が立ち、主に屑繭を中心としていたよ。また、明治30年頃には5月31日から6月9日まで細ヶ沢町と同じように桑市場が開かれていたよ。それから江戸時代には広瀬河岸があったんだ。愛宕神社前の堰付近にあったよ。だが、古い図面を見ると比刀根橋から左に折れ国道17号線に出る手前、北側に行く道辺りに水路があり、広瀬川の水を引き入れたようで、広瀬河岸はここではないかと思うよ。

ボ：ク：なにかこのまちに思い出はあるの？

おじいちゃん：戦災の話で比刀根橋際の防空壕の悲劇があるね。昭和51年4月、ここに追弔碑が建てられたんだよ。また、当時県下屈指の劇場だった柳座があったよ。古くは愛宕座といい、明治21年に創建され、建坪180余坪の芝居小屋だったんだよ。当時有名な人たちが来演していたんだ。昭和4年2月、この柳座で「上州小唄」の発表会が行われ、作詞の野口雨情、作曲の中山晋平が来て、中山晋平の伴奏で佐藤千夜子が唄ったというよ。

ボ：ク：このまちは悲しい思い出や誇れるような施設があったんだね。これからも大切にしていきたいね。

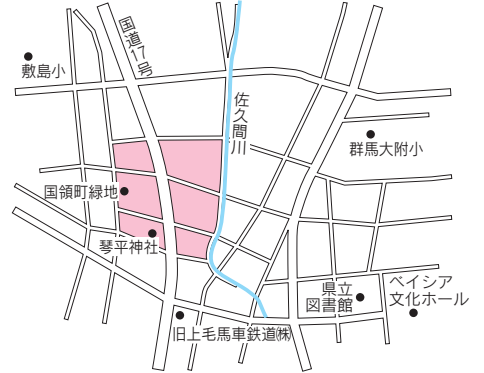
おじいちゃん：そうだね。では、次回は琴平町に行ってみよう。



琴平宮
国道 17 号沿いに山車小屋とともにたたずむ

琴平町

Kotohira-cho



おじいちゃん：今日は琴平町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「ここのちやう」と呼ぶんだよ。

ボク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：昭和3年から昭和40年までそう呼ばれていたよ。もとは先日訪れた岩神町の一部だったんだよ。大正3年、甲と乙の岩神町に二分され、この乙岩神町のうち「字琴平前」と「字河岸北」をもって独立し琴平町となったんだよ。

ボク：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪れた細ヶ沢町西側の国道17号線を挟んだ界限と小柳町東側の飛地界限になるね。

ボク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：まちの中にある琴平宮にちなんで付けられたようだよ。そして代々前橋城主の崇敬のあつい社だったんだ。ところでこの琴平宮が現在地に移されたのが江戸後期のことで、琴平前という字名からもわかるとおり、それ以前は現在地より300mほど北西寄の国領分にあつたこともあり、新町名として琴平町とすることについて当時の国領より抗議があつたという話があるよ。

ボク：当時の琴平町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：このまちは、佐久間川に沿った細長いのかな村だったんだよ。製糸工場があつたり、精米所などもあり水車が回るなど四季の風情を感じさせたというよ。時には、この辺の田んぼに相撲小屋が掛けられ、当時の有力士も来たそうだよ。

ボク：当時の琴平宮の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：琴平宮は長い歴史と共に生きてきた大木に囲まれた静かな憩いの場として庶民の信仰を集め、また旅立ちにあたり道中無

事の安全を祈願する人々が多く、隆盛であつたというよ。江戸期の文化から弘化の頃（17世紀前半）は、毎月九・十兩日、特に十月の大祭には参拝の人々が列をつくり、広瀬川に架かる厩橋を経て細ヶ沢から琴平に通じる道筋には露天店が連なり、遠くは利根、吾妻、新田、佐波（現在の伊勢崎市付近）、多野（現在の藤岡市付近）、甘楽にわたる広い地域から集まり、賑わつたというよ。

ボク：昔は琴平宮を中心にまちは賑わつていたんだね。

おじいちゃん：でも、このまちが発展したきつかけとなつたのは、以前訪れた豎町や国領町、細ヶ沢町と同じく、明治22年、渋川方面へ通じる新道、現在の国道17号線が開通してからなんだよ。ちなみに翌年の明治23年には、前橋停車場（前橋駅）から渋川まで馬車鉄道が開通したんだ。戦後間もない頃まで、現在の住吉町交番の南向かい側のところに、かつての上毛馬車鉄道（株）があり、電車会社とっていったよ。この新道が開通した前後この辺りは、まだ大部分が田や畑で、佐久間川べりの笹藪などにはアヒルが群れをなして、川で泳いでいたりして卵を生みつばなしたつたので、子供がそれを見つけては食べたという話もあるよ。

ボク：のどかなまちだったんだね。現在は国道17号線に色々な店舗が建ち並び変化しているけど、琴平宮はひっそりと鎮座し見守っているように思うので、大切にしていきたいね。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は清王寺町に行ってみよう。

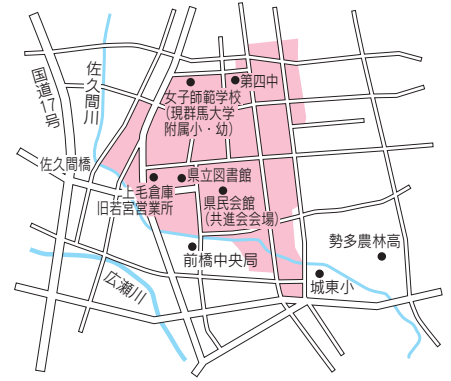
おじいちゃん：そうだね。では、次回は清王寺町に行ってみよう。

清王寺町

Seiouji-machi



上：1府14県連合共進会会場は現在の県民会館に位置した
 右：上毛倉庫若宮営業所のレプリカの台座にはレンガが再利用される



おじいちゃん：今日は清王寺町に行ってみよう。

ボ **ク**：なんて読むの？

おじいちゃん：「せいおうじまち」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年まで清王寺村と呼ばれたよ。明治22年から43年まで清王寺という大字名だったんだけど、特に明治22年に前橋町の大字名、明治25年に前橋市の大字名だったんだ。続いて明治43年から昭和40年まで清王寺町と呼ばれていたよ。

ボ **ク**：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：町名のはっきりとした由来は不明だそう。この地内にあつた寺院の名によるものだとか、また昔この辺りに城というより砦のようなものがあつて、そこに清王寺新井入道という人がいたからとか色々な説があるんだよ。一説では戦に敗れて越後からこの地に来たともいわれるこの人物は箕輪城主である長野業政（なりまさ）の家来だったが、武田軍に攻め滅ぼされたという。かつて本丸を囲み「コ」の字形に幅3間（約5.5m）ほどの堀があり、土手もあつたという。

ボ **ク**：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：県道前橋赤城線の東側で、以前訪れた栄町と才川町の間の界隈だね。

ボ **ク**：当時の清王寺町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：明治43年9月より11月まで開催された「1府14県連合共進会」で今の県民会館

の場所が第一会場となり、水田2万坪が整地されたんだよ。共進会終了後、群馬県師範学校となって戦後に群馬大学に昇格、現在の荒牧へ移転した後に県民会館が建てられたんだよ。周辺には県立図書館、前橋商工会議所会館があり、多くの人々がこの地に集まっているね。他に放送大学や群馬大学附属幼稚園、群馬大学附属小学校があるね。

ボ **ク**：周辺に大きな施設とかあつたの？

おじいちゃん：県道前橋赤城線の県民会館入り口の角に明治28年創業の上毛倉庫株式会社が所有するレンガ造りの上毛倉庫があつたね。大正6年に若宮営業所として建設され、大正、昭和、平成の三代にわたり、群馬県の地場産業である繭、生糸の保管倉庫としてその役目を果たしていたんだよ。しかし時代の変化とともに蚕糸産業もその使命を全うし、このレンガ倉庫も平成15年に解体されたんだ。跡地の一角には実際に使われていたレンガを再利用した台座の上に、倉庫を再現したレプリカが設置されてあるね。

ボ **ク**：時間が流れてまちは新しくなっていくけど、使われていたレンガを活かして生糸のまちの姿をとどめておく事は大切だと

ぼくは思うよ。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は大塚町・百軒町に行ってみよう。



大塚町・百軒町

Otsuka-machi & Hyakken-machi



上：旧百軒町から旧大塚町方向を臨む
区画整理が進むが昔の面影を残す
右：赤亀橋の謂われを示すプレート
厩橋城の縄張りの伝説を記すプレート

おじいちゃん：今日は大塚町と百軒町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：それぞれ「おおつかまち」、「ひやつけんまち」と呼ぶんだよ。

ボク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：二つのまちは江戸期から昭和40年の町名だったんだよ。江戸期は前橋城下の武家地の一つで、城下町東端につくられた足軽が住む地区だった。百軒町は近世末期には東西二町に分かれていたが、明治9年に合併したんだ。そして、二つのまちは明治22年前橋町、明治25年前橋市の町名だったんだよ。

ボク：由緒ある町名だったんだね。どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：大塚町の由来は以前訪れた芳町との境目あたりに大塚山と呼ばれる塚があったことによるようだ。一方、百軒町は江戸期酒井氏の時代、この地の南北に直線的な2本の道があり、その両側にそれぞれ25軒ずつ並び、あわせて100軒の足軽の住居が置かれていたことから足軽町と呼ばれていたが、いつの間にか百軒町と呼ばれるようになったようだ。

ボク：このまちはどこになるのかなあ？

おじいちゃん：大塚町は以前訪れた芳町の東側と広瀬川と分岐する端気川に挟まれた部分にあつて、百軒町は大塚町の東側で今の前橋赤十字病院の西側に集落があつたそうだよ。今で言う国道50号線と広瀬川、端気川を挟んだ界隈ということになるかな。

ボク：当時の大塚町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：幕末の前橋城が再築されたとき、家臣のお屋敷が置かれ、その頃は「大塚小路」と呼ばれていたそうだ。また、あまり大きな

まちではなく大正6年には47戸しかなかったそうだよ。このまちで忘れてならない人に大沢雅休という人がいるよ。この人は書家、また歌人として前橋市の文壇に大きな足跡を残した人なんだよ。

ボク：次に当時の百軒町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：百軒町には尾曳稲荷神社と赤亀橋があるね。ともに太田道灌が厩橋城を築いたという伝説によるもので、ある時、道灌が厩橋城の縄張りを考えていると、そこに一匹の赤い亀が出てきた。その赤亀の尾が描いた見取図がすばらしい縄張であったということから、城の守護神としてこの赤亀を祀ったというよ。今の赤亀橋にその伝説を記すプレートがあるよ。

もう一つ高峯院があるよ。もとは以前訪れた立川町にあつて、橋林寺の末寺で1650年に龍怒和尚の開祖になるもので、明治12年火災にあつて再建したが、再び焼失したのち、今の場所に移ったというよ。

また、戦前百軒町といえば先日訪れた才川町と同じく糸のまちだったんだよ。大小多くの製糸工場や撚糸工場があつたが、戦中から大きく変わり、今では落ち着いた住宅地になっているね。

ボク：今では大きく変わってしまったけど、忘れてならない人がいたり、歴史を感じさせられる神社仏閣があつたりしているの

で大切にしていきたいね。そしてなぜかボクたちに「まえばし」の昔の思い出を伝えてくれるまちだね。

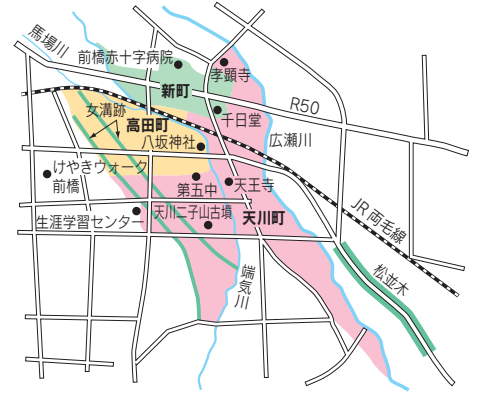
おじいちゃん：そうだね。では、次回は天川町・新町・高田町に行ってみよう。

天川町・新町・高田町

Amagawa-machi & Shin-machi & Takada-machi



天川二子山古墳（国指定史跡）
この近辺には150基以上の古墳があった



おじいちゃん…今日は天川町、新町、高田町に行ってみよう。

ボ ク…なんて読むの？

おじいちゃん…「あまがわまち・しんまち・たかだまち」と呼ぶんだよ。

おじいちゃん…ク…いつからそういう町名になったの？

ボ …この辺りは戦国時代から天川という地名で、後に3つに分かれたんだよ。江戸期から明治22年までは天川村と呼ばれ、明治22年からは前橋町、明治25年からは前橋市の天川という大字名となり明治43年から天川町となったんだよ。新町は江戸期に前橋城下の町人町として天川新町となり、明治9年から昭和41年にかけて新町という町名だったんだよ。高田町は旧町名のなかでは新しい地名で、昭和7年にできたんだよ。

ボ ク…とっても昔からの歴史ある町名だったんだね。どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん…天川の名前はかつてこの地を流れていた



千日堂前に残る道標
かつてはここが丁字路であった

利根川を「天の川」になぞらえて、その兩岸の集落を呼んだんだよ。新町は天川村の中に城下町を造るときに新しい町割をした際にでき、高田町は天川町のうち字高台と字矢田町、新町の一部が合わさってでき、高台と矢田町の一字を組合せて高田町と名づけられたんだよ。

ボ ク…このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん…天川町は西側が生涯学習センター近辺、東側が広瀬川までの界限だね。新町は前橋赤十字病院周辺の界限、高田町は天川小学校近辺から両毛線の沿線を挟んだ界限だね。

ボ ク…当時の様子や神社仏閣を見てみたいよ。

おじいちゃん…天川町に八坂神社があり、境内に昭和46年「天川地名愛惜之碑」が建てられ、「この地は、もと天川と称し前橋発祥の地として、千数百年をこえる古墳時代より古代文化の一中心をなした由緒深いところである」と碑面にあるよ。碑面のとおり7世紀前半に築かれた天川二子山古墳が



天川町の八坂神社



昭和46年、八坂神社に建立された「天川地名愛惜之碑」



孝願寺境内にある「蚕霊供養塔」

あって、古墳の北西に女溝の遺構があり、古地図では高田町から古墳に辺りにかけて細長く2本の溝の跡がわかるよ。また、天王寺というお寺の向側に江戸時代の相撲取りである佐渡ヶ獄沢右衛門、「強山道力居士」という墓石があり、前橋城主は喜んで屋敷を与え、これが佐渡屋敷なんだね。お寺といえば日本三孝願寺（結城市・福井市・前橋市）の一つである孝願寺があつて境内には蚕霊供養塔があるね。

ボ 次に当時の新町の様子を見てみたいよ。
ク 新町に「百番供養塔」があるよ。国道50

号線の朝日町東交差点を南下したところにある小さな十字路に千日堂があり、「右江戸 左日光」と記されているよ。昔ここが丁字路で天川町の本通りだったんだ。南に向かう道はかつて江戸道と呼ばれ、もう一本の東に向かう道は野中方面

へ通じていたんだよ。前橋城主の江戸への往復に使われるなど往来する人にとつて大事な道標だったんだね。新町通りとも呼ばれたこの道は戦前の耕地整理と戦後の区画整理によつて現在の広い道となったんだよ。

ボ このまちで忘れてならない人で江原芳平氏がいたよ。生糸商として横浜貿易で財をなし、明治12年生糸改良のためこのまちに製糸会社天原社を創設、また前橋で初めての新町信用組合をつくつたんだよ。それから、大正2年に開院した前橋赤十字病院があるね。

ボ 最後に当時の高田町の様子を見てみたいよ。

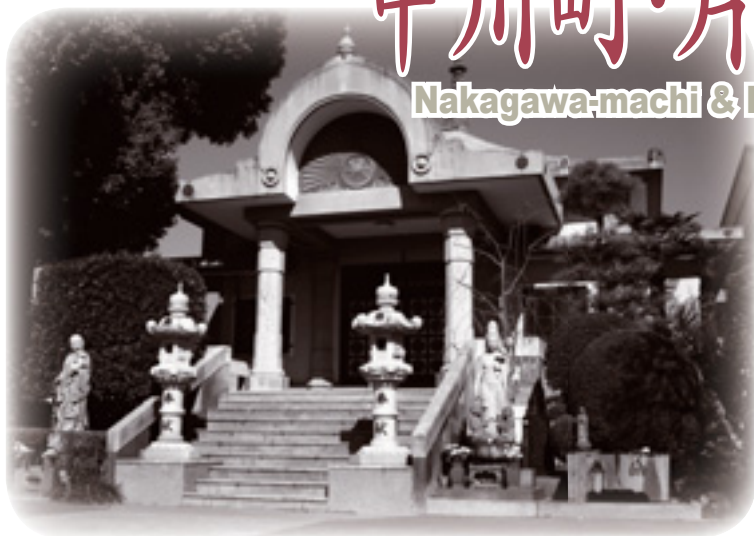
おじいちゃん 「前橋新風土記」には、「矢田から天川の松並木まで三百近くの軽輩士族が並んでいただけあつて、僅かな商店と農家の他はほとんど住宅居住者」と記されているよ。昔の人たちは、この辺りを高台と呼んでいたんだよ。このまちにも五つの古墳が記録されているよ。天川二子山古墳より小型の不二山古墳、円墳3基などがあるよ。古代には立派な豪族がこの付近にいて、高い文化を誇っていたようだね。

ボ この3町は古代や江戸期の前橋にとつて重要な地域だったんだね。多くの歴史を物語る古墳や石碑が今でも残っているのはすごいことだし、これからも大切に保存していきたいね。

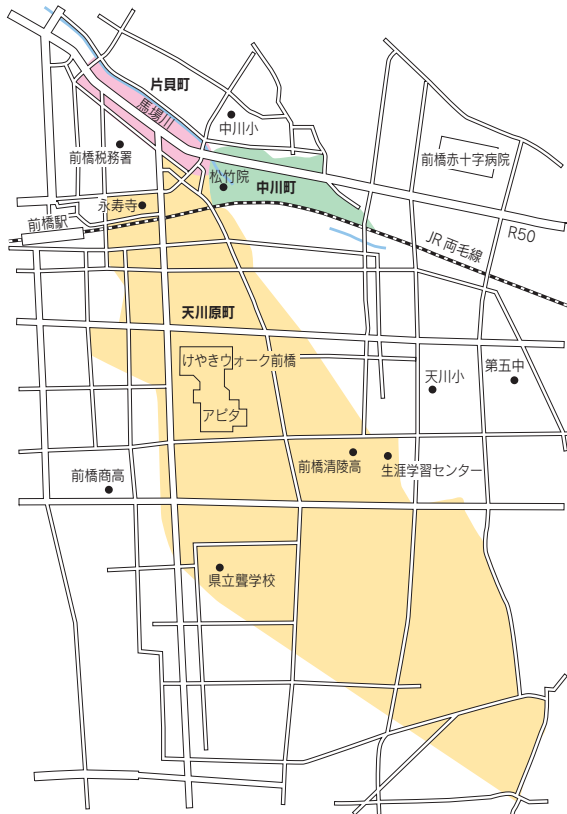
おじいちゃん そうだね。では、次回は中川町・片貝町・天川原町に行ってみよう。

中川町・片貝町・天川原町

Nakagawa-machi & Katakai-machi & Amagawahara-machi



前橋城の高浜曲輪から移された松竹院



ボ おじいちゃん.. 中川町はまちを横断する江戸道沿いのまちで、通路の中央に水路があったからそう呼ばれたようだよ。片貝町はまちの北側の馬

ク ..各まちとも歴史のある町名だったんだね。どうしてそういう町名になったの？

ボ おじいちゃん..「なかがわまち・かたかいまち・あまがわはらまち」と呼ぶんだよ。
ク ..いつからそういう町名になったの？

ボ おじいちゃん..今日は中川町、片貝町、天川原町に行ってみよう。

ボ

ク ..次に当時の片貝町の様子や神社仏閣を見て

よ。金置いていった。その包紙に文治の記名があったので、通称文治稻荷といっているよ。

ボ おじいちゃん..「中川小学校百年のあゆみ」に「当時の中川町は道の中央に小川が流れ、杉の木が並木をなし、人は川の両側を歩き、物資運搬の馬が水を飲み、馬丁が顔や手を洗うというのど情景がみられた。こののどかな風景も馬車が運行するようになってから川を片側に移し、川に併行して道がつくられたと伝えられる」とあるよ。その中川小学校は明治7年に寺子屋を仮校舎として創立し、その後、教育制度がわが国に導入さ時期でもあったため、校名の変更、合併、学校の移転があったようだよ。それから稻荷社があるよ。1854年秋の頃、ある老人がこの地に来て、「当郷に鎮守無し、これを基にして稻荷の祠を建てて鎮守とすべし」と、お金を置いていった。その包紙に文治の記名があったので、通称文治稻荷といっているよ。

ボ **ク** ..当時の中川町の様子や神社仏閣を見てみたいよ。

おじいちゃん.. 中川町は先日訪れた百軒町や新町の西側、国道50号線を挟んで高田町の北側界隈だね。片貝町はそのまた西側で、国道50号線を挟んで以前訪れた芳町と田中町の間の界隈だね。天川原町は前橋けやきウオークや県立清陵高校、生涯学習センターのある広い区域だね。

ボ **ク** ..中川町や天川原町は名残がなくなってしまうたが、片貝町は自然地形の名残があるので、よくわかるよ。ところでこのまちはどこになるのかなあ。

場川沿いが低くなっている地形に由来し、これを片方だけ峽（はざま）を成しているところからそう呼ばれたようだよ。天川原町は旧利根川を天の川になぞらえて天川村と呼ぶようになったことから、この付近の原っぱが天川原と呼ばれたのではないかと



昭和4年当時の中川小学校正門



朝日薬師。周囲の芋は見られなくなったものの
当時の面影を残す風情はそのまま

みたいよ。

おじいちゃん…現在の国道50号線は昔、伊勢崎街道と呼ば

れていて、まちの真中を通り、賑やかであったというよ。この道は前橋城への東入口として重要な役目をもった道で、たいへん、くねくねと曲がった道だったよ。それと、城下町の道の名残で、城まで見通せないように曲がりくねっていたんだね。戦後、区画整理をする際は大変だったよ。城といえ、幕末に前橋城が再築されたが、この時、本殿を造った大工の棟梁の倉吉はこのまちの人とされているよ。また中川小学校は先日訪れた中川町に寺子屋として仮校舎があったが、最初に建てられた本校舎は片貝町32番地にあつたよ。さらにこのまちに朝日薬師、別名芋ッ葉薬師があるよ。天保の頃、在の人が赤城に柴刈りに行くとき、馬に乗ってここを通ると朝日に照らされてピカッと光ることから朝日薬師と言われるようになったり、4月と9月の8日が例祭で、その日は決まって雨が降ったもので、参詣者は近所の畑にある芋ッ葉を傘がわりにして帰ったことから芋ッ葉薬師と言われるようになったというよ。このまちの出身に市村良平という人がいて文久年間に生糸商を開業し、前橋でも屈指の商人となり、明治19年には市村社という製糸工場を創立したというよ。

ボク…最後に当時の天川原町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…文政4年の「上野国群馬郡天川原分間絵図」

には、「天川原村内、片貝町・十八郷町・榎町・萱屋町・紺屋町・鍛冶町・白銀町・本町」とあり、他の古文書にも、この8カ町が天川原村のうちに記されているんだよ。このことから「前橋市史」は前橋の城下町を形成する際、天川原が何らかのかかわりをもっていたと指摘している。また、現在本町にある八幡様は、古くはこの村内に祀られて

いたと伝えられ、移転後は八幡様の大鳥居

の注連縄は、天川原から寄進される習わしがあるよ。現在は八幡神社があり、御祭神が鬼子母神であることから安産子育ての守り神として、また、産土神として信仰を集めているよ。他に松竹院があり、高浜山松竹院梅林寺と号し、山号からもわかるとおり前橋城の高浜曲輪にあつたものを、このまちに移されたんだよ。田中町に接している永寿寺は松平大和守が姫路在城の時、僧日教を開祖とした日蓮宗の寺で、慶応3年川越からこのまちに移されたんだよ。墓地には五代目嵐寛十郎の墓があるよ。このまちの中には前橋けやきウォークがあるが、以前は中島飛行機前橋工場が誘致され、終戦後連合軍に接収されキャンプとなり、昭和35年ダイハツ前橋製作所が誘致されたんだよ。

ボク…今は変わってしまったけど、昔はのどかな風景があつたり、江戸期の前橋にとって重要な地域だったんだね。そして歴史のある神社仏閣がひっそりと残されていて、うれしく思うよ。それにしても今まで旅してきたまちの一部が何らかのかかわりをもっていたことを考えると大切な地域なんだと思うよ。

おじいちゃん…そうだね。それでは今回で旧町名の旅は終わりにしたよ。

ボク…寂しい思いだけど、おじいちゃん、長い間ありがとう。今までボクたちの住まえばし

のまちを訪れ、町名の由来や歴史が理解できたし、楽しかったよ。そして、忘れつつある昔の町名を次世代に受け継いでいくよ。また機会があつたら、他のまちを旅してくれる?

おじいちゃん…長い間付き合ってくれてありがとう。また機会があつたら旅をしよう。

ボク…楽しみにしているよ。

旧町名地図



あとがき

本書は機関誌「商工まえばし」に、36回にわたってまえばしの旧町名について連載されたものを一冊の冊子としてまとめたものです。

連載にあたり、まえばしのまちを訪れ、その土地の匂いを感じ、また、文献を調べ、旧町名について探ってきました。既に昔の町名や風景が失われているものが多い中、まだ現存するものがあったり、その土地の記憶があるため名残があったりしていることを発見し驚きました。時代が流れ、旧町名をはじめ、昔の面影について忘れつつありますが、現存するものは保護保存し、なくなったものは大切に次世代に語り継ぎたいと思っております。それはこれから私たちが生きていくために、その土地の先祖の皆様の魂を受け継ぐ必要があるように思うからであります。

そのために、本書を発行したわけですが、今後少しでもまえばしの発展に向けて考えるきっかけになれば、これにまさる喜びはありません。

ご指導いただいた群馬地名研究会役員の方々並びに会員の皆様、まちを散策した時にお世話になった皆様、本書の発行を推薦してくださった前橋商工会議所役員の皆様、原稿に目を通していただき、地図や写真を提供してくださった前橋商工会議所事務局の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 23 年 7 月 2 日

群馬地名研究会 倉地 啓仁

商工まえばし別冊 **旧町名への旅**
平成 23 年 8 月 1 日発行

著者／倉地 啓仁

発行／前橋商工会議所

〒 371-0017 前橋市日吉町 1 丁目 8 番地 1

Tel. 027-234-5111 (代)

URL <http://www.maebashi-cci.or.jp/mcci>

企画編集／前橋商工会議所広報特別委員会

印刷／朝日印刷工業株式会社

〒 371-0846 前橋市元総社町 67

Tel. 027-251-1212 (代)

倉地 啓仁 (くらち のぶひと)

【プロフィール】

昭和 37 年 12 月 19 日、東京生まれ、前橋育ち
昭和 60 年 東京農業大学農学部造園学科卒業
現在前橋市役所に勤務、また、群馬地名研究会
に所属。地名研究の他、郷土史、自然環境、都
市環境、風景論、歴史や民俗、日本文化、神仏、
宇宙天文学等に関心を持ち、研究を行っている。
温泉入浴、散歩、喫茶店巡りが趣味。



前橋御城下町祇園祭礼絵図
(前橋市民文化会館 大ホール第2 緞帳)

頒布価格 380 円 (税込み)